YAMAHA

取扱説明書

⚠ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。

XSR 900

モーターサイクル

XSR900 (MTM890)

BEA-28199-J1●

安全運転のために 1
各部の名称 2
車両の特徴 3
各部の取り扱いと操作 4
日常点検 5
運転操作 6
点検整備 7
お車の手入れ 8
製品仕様 9
ユーザー情報 10
索引 11

JAU27254

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。
車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。
車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。
また、メンテナンスノート、セーフティガイド（バイクをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。
本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠	**安全にかかわる注意情報を示してあります。**
⚠ 警 告	**取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。**
注 意	**取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。**
要　点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間

※ 車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。
※ 仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために 1-1
- あなた自身と同乗者のために 1-1
- 歩行者と他の車のために 1-5
- 環境・住民の方との調和のために 1-6

各部の名称 2-1
- 左側面 2-1
- 右側面 2-2
- 運転装置と計器類 2-3

車両の特徴 3-1
- クルーズコントロールシステム 3-1
- D-MODE（ドライブモード） 3-3
- TCS-MODE（トラクション コントロールシステムモード） 3-4
- クイックシフター 3-5
- BC（ブレーキコントロール システム） 3-6

各部の取り扱いと操作 4-1
- キーの取り扱い 4-1
- イモビライザーシステム 4-2
- メインスイッチ 4-2
- ハンドルスイッチ 4-3
- 警告灯と表示灯 4-6
- ディスプレイ 4-9
- メニュー画面 4-15
- シフトペダル 4-19
- ブレーキコントロール (BC) 4-20
- フューエルタンクキャップ 4-21
- 燃料 4-22
- シート 4-22
- ライダーフートレスト位置の 調整 4-23
- ヘルメットホルダー 4-23
- 書類入れ 4-23
- ハンドル位置の調整 4-24
- フロントフォークの調整 4-24
- リヤクッションの調整 4-26
- ブレーキレバーの握り調整 4-28
- DC コネクター 4-28
- ETC コネクター 4-28
- サイドスタンド 4-29
- イグニッションサーキット カットオフシステム 4-29

日常点検 5-1
- 日常点検の実施 5-1
- 日常点検箇所／点検内容 5-1

運転操作 6-1
- ならし運転 6-1
- エンジン始動 6-1
- ギヤチェンジのしかた 6-2
- ブレーキ 6-3
- 駐車 6-4

点検整備 7-1
- 点検整備の実施 7-1
- サービスツール 7-2
- サイドカバー 7-2
- エンジンオイル 7-5
- エンジンのかかり具合、 異音の点検 7-6
- 低速、加速の状態の点検 7-7
- 冷却水 7-7
- エアクリーナーエレメントの交換 7-8
- タイヤ 7-9
- クラッチ 7-11
- ブレーキレバーの遊び／ ブレーキペダルの遊び、および ブレーキのきき具合の点検 7-11
- ブレーキランプスイッチの点検 7-12
- ブレーキパッドの点検 7-12
- ブレーキ液量の点検 7-13
- ドライブチェーン 7-13
- ドライブチェーンの給油 7-15
- バックミラー 7-15
- 車体各部の給油脂状態の点検 7-16
- アンダーブラケットの 取り付け状態の点検 （ステアリングステム） 7-16
- バッテリー 7-16
- ヒューズ交換 7-18
- 灯火装置および方向指示灯の 点検 7-20
- 運行において異常が認められた 箇所の点検 7-21

お車の手入れ 8-1
- 洗車 8-1
- アルミフレーム、 キャストホイールの取り扱い 8-2
- 保管のしかた 8-3

アフターケア用品について.....8-3

製品仕様.....9-1

ユーザー情報.....10-1
二輪車を廃棄する場合は？.....10-1
サービスマニュアル（別売）の紹介.....10-2
車両情報.....10-2

索引.....11-1

JAU27281

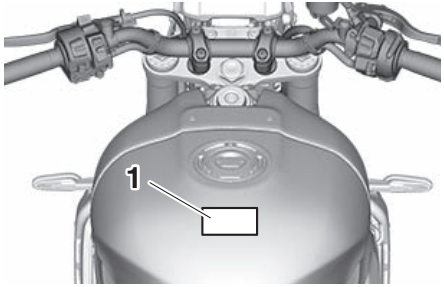
この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。
安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

JAU2737B

あなた自身と同乗者のために

安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。
車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。



1. 安全項目ラベル

⚠ 警 告

- 取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- 違法改造はやめましょう。
- 定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットは PSC または SG、JIS マークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっくり合って、圧迫感のないものが最適です。
- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は以下のことを確認して選び、着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
  - プロテクターを備えた保護性の高い服

で明るく目立つ色のもの
- 動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボン



- 以下のような服装は運転操作のじゃまになります。また、回転部分に巻き込まれたり高熱になる部分に接触したりして、思わぬ事故の原因にもなりますので、着用しないでください。
  - ズボンのすそや袖口の広い服
  - 衣服の飾り物や紐など、長すぎる装飾がある服
  - ロングスカートやロングマフラーなどの体に密着しない服





- 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。
- 同乗者にも上記の注意を守らせてください。

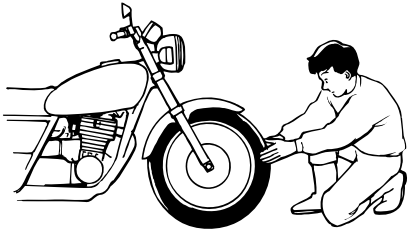
JWA11601

⚠警 告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を必ず行う

事故や故障を防ぐため、法令で定められた日常点検を行ってください。また、法令で定められた１年、２年ごとに行う定期点検も必ず実施してください。



車の異状

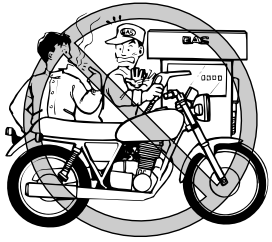
次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそ

れがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

- 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

給油時は火気厳禁

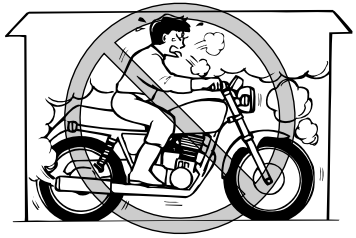
ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。



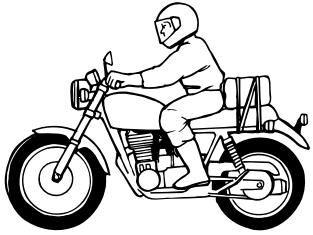
風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。

風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。



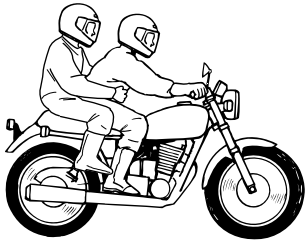
荷物はしっかり固定する



- 荷物を積むと、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。荷物はしっかりと固定し、積み過ぎないように注意してください。
- ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。
- ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色、溶損したり、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。
- マフラー、エンジンなどの熱くなるところへ荷物などの物が触れないようにしてください。

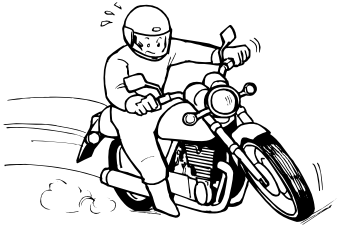
両手はハンドル、両足はフットレスト

- 運転するときは、両手でハンドルを握り、両足をフットレストにのせます。
- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足を必ずフットレストにのせさせます。



乗車定員は 2 名
ただし、免許取得後 1 年未満の運転者は、法令により 2 人乗りはできません。
また、高速道路（2 人乗りが許可されている高速道路）においては、20 才以上で、免許取得後 3 年を経過した運転者でなければ 2 人乗りはできません。

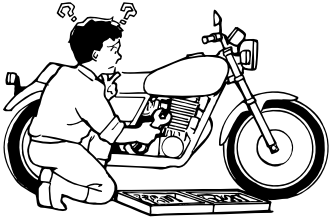
急激なハンドル操作や片手運転はしない
急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。



誤った方法でエンジンを停止しない
誤った取り扱いをすると、マフラーの中の触媒装置が異常に高温になり、損傷するおそれがあります。次のような操作はしないでください。

- 走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチでエンジンを停止する。
- 空ぶかし直後にエンジンを停止する。

自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない
エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。



JCA15221

注 意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

継続検査（車検）を受ける
二輪の小型自動車（251cm^3 以上）は、国で定める継続検査を受けなければ使用できません。また、初回の継続検査は新規登録日から 3 年後に受け、2 回目以降の継続検査はその後 2 年ごとに受けます。
検査の有効期間満了前に必ず、継続検査を受けてください。



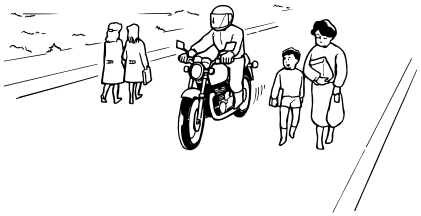
1

JAU27504

歩行者と他の車のために

他の人への思いやり

- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。



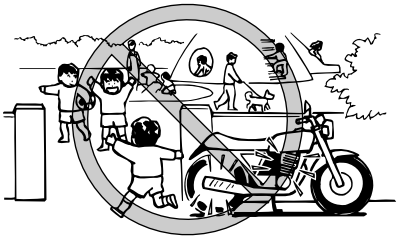
駐車

- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。
- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- 車から離れる前に、スタンドが確実にセットされているかを確認してください。

JWA12241

⚠警 告

- **エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。また、物などが直接触れないようにしてください。**
- **駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。**
- **マフラーの中の触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、オイル、木材など、燃えやすいものがある場所には駐車しないでください。**





昼間はヘッドライトを下向きに

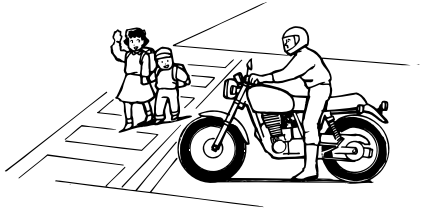
この車両は自動昼間点灯仕様です。他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるためです。対向車がまぶしくないように、ライトは下向きを使ってください。

JAU27582

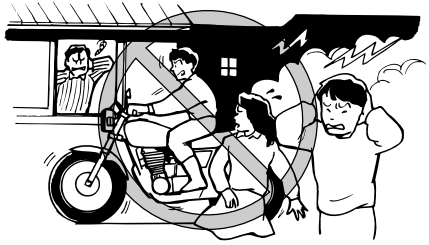
環境・住民の方との調和のために

住民の方への思いやり

自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。

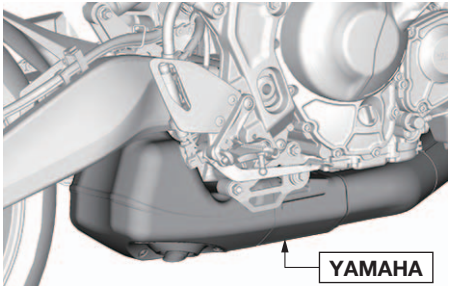


特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。



違法改造はしない

- 違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。
- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラーには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラーを交換する場合は、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。なお、ヤマハ純正部品のマフラーには“YAMAHA”マークが刻印されています。



環境への配慮

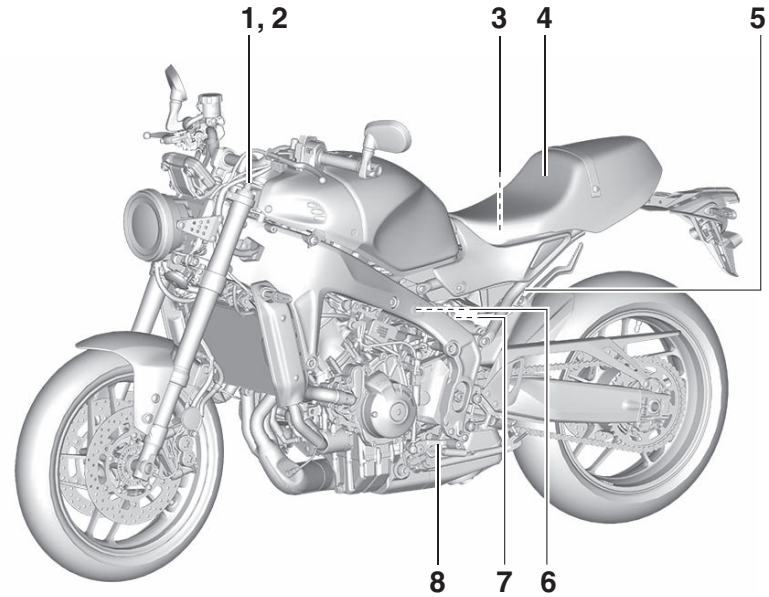
廃車をするときや、バッテリー、廃油などの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

各部の名称

JAU10411

左側面

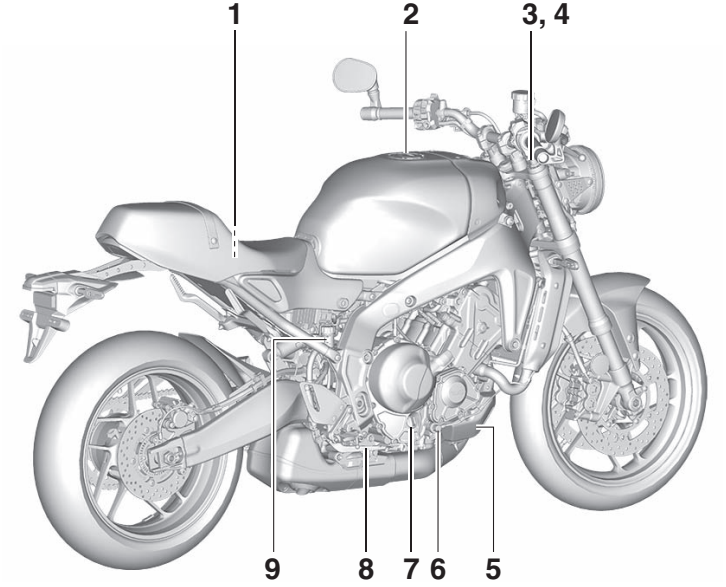
2



1. スプリングプリロードアジャスター (P4-24)
2. 圧側減衰力アジャスター（P4-26）
3. バッテリー（P7-16/7-17）
4. シート (P4-22)
5. ヘルメットホルダー（P4-23）
6. 伸側減衰力アジャスター (P4-26)
7. スプリングプリロードアジャスター
8. シフトペダル（P4-19）

JAU10421

右側面



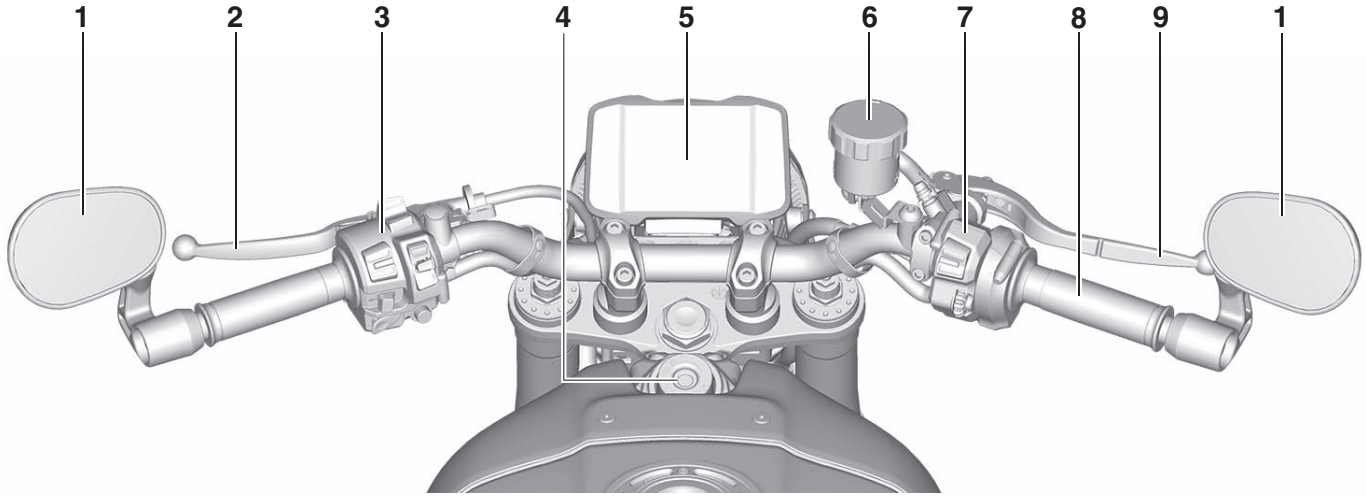
1. ヒューズ（P7-18）
2. フューエルタンクキャップ（P4-21）
3. スプリングプリロードアジャスター (P4-24)
4. 伸側減衰力アジャスター (P4-24)
5. リカバリータンク（P7-7）
6. エンジンオイル点検窓（P7-5）
7. オイル注入口（P7-5）
8. ブレーキペダル（P7-11）
9. リヤブレーキリザーバータンク（P7-13）

各部の名称

JAU10431

運転装置と計器類

2



1. バックミラー (P7-15)
2. クラッチレバー（P7-11）
3. ハンドルスイッチ（左）（P4-3）
4. メインスイッチ / ハンドルロック（P4-2）
5. ディスプレイ (P4-6/P4-9)
6. フロントブレーキリザーバータンク（P7-13）
7. ハンドルスイッチ（右）（P4-3）
8. スロットルグリップ
9. ブレーキレバー（P7-11）

JAU91733

クルーズコントロールシステム

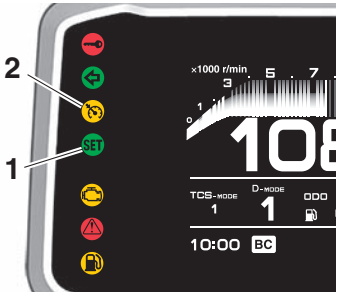
この車は、一定のスピードを維持するためのクルーズコントロールシステムを装備しています。

クルーズコントロールシステムは、ギヤが 4 速、5 速、または 6 速で、約 50 km/h ～ 180 km/h の間で走行しているときにのみ作動します。

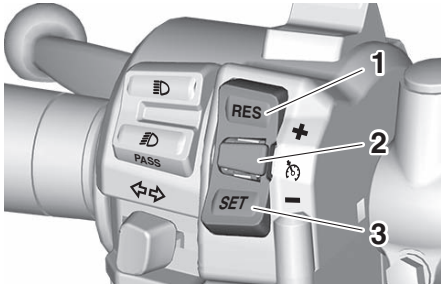
JWA21140

⚠警 告

- **法定速度を守って走行してください。**
- **クルーズコントロールシステムを誤って使用すると、制御を失い、事故につながる可能性があります。クルーズコントロールシステムは、交通の激しい場所、悪天候時、カーブの多い道、滑りやすい道、斜面、凹凸のある道、または砂利道などで作動させないでください。**
- **上り坂または下り坂を走行する場合、クルーズコントロールシステムは設定したクルージングスピードを維持できない可能性があります。**
- **クルーズコントロールシステムを誤って作動させないため、使用しないときはスイッチを切ってください。クルーズコントロールシステム表示灯 “ ” が消灯していることを確認してください。**



1. クルーズコントロール設定表示灯 “SET”
2. クルーズコントロールシステム表示灯 “ ”



1. クルーズコントロール設定スイッチ “RES+”
2. クルーズコントロール電源スイッチ “ ”
3. クルーズコントロール設定スイッチ “SET–”

クルーズコントロールシステムの作動と設定

1. クルーズコントロール電源スイッチ “ ” を押します。クルーズコントロールシステム表示灯 “ ” が点灯します。
2. クルーズコントロール設定スイッチの “SET–” 側を押して、クルーズコントロールシステムを作動させます。現在の走行スピードがクルージングスピードとして設定され、クルーズコントロール設定表示灯 “SET” が点灯します。

設定したクルージングスピードの調整

クルーズコントロールシステムの作動中、クルーズコントロール設定スイッチの “RES+” 側を押すと、設定したクルージングスピードが増加し、“SET–” 側を押すと設定したクルージングスピードが減少します。

要 点

設定スイッチを 1 度押すごとに、設定スピードが約 2.0 km/h 変化します。クルーズコントロール設定スイッチの “RES+” 側または “SET–” 側を押したまま保持すると、スイッチをはなすまで、スピードが連続的に増加または減少します。

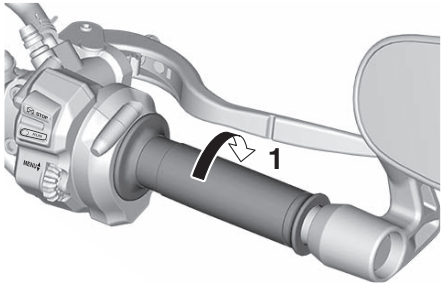
走行スピードは、スロットルを使用して手動

でも増加することができます。加速した後、設定スイッチの “SET–” 側を押すと、新しくクルージングスピードの設定ができます。新しくクルージングスピードの設定をしない場合、スロットルグリップを戻すと、車両は前回設定したクルージングスピードまで減速します。

クルーズコントロールシステムの停止

設定したクルージングスピードを取り消すには、次のいずれかの操作を行います。この操作を行うと、クルーズコントロール設定表示灯 “SET” が消灯します。

- スロットルグリップを、全閉位置よりさらに減速方向に回します。



1. 減速方向

- フロントブレーキまたはリヤブレーキをかけます。
- クラッチを切ります。
- ギヤチェンジします。

電源スイッチを押して、クルーズコントロールシステムをオフにします。クルーズコントロールシステム表示灯 “” および、クルーズコントロール設定表示灯 “SET” が消灯します。

要　点

クルーズコントロールシステムを停止したとき、スロットルグリップを回さないと、すぐに走行スピードが減少します。

再開機能の使用方法

クルーズコントロールシステムを再び作動させるには、クルーズコントロール設定スイッチの “RES+” 側を押します。走行スピードが前回設定したクルージングスピードに戻り、 クルーズコントロール設定表示灯 “SET” が点灯します。

JWA16351

⚠警 告

前回設定したクルージングスピードが現在の走行状況に対して速すぎる場合、再開機能を使用することは危険です。

要　点

システムの作動中に電源スイッチを押すと、システムは完全にオフになり、前回設定したクルージングスピードが消去されます。再開機能は、新しくクルージングスピードを設定するまで使用できません。

クルーズコントロールシステムの自動停止

このモデルのクルーズコントロールシステムは電子制御されており、その他のコントロールシステムとリンクされています。クルーズコントロールシステムは、以下の条件で自動的に停止します。

- クルーズコントロールシステムが、設定したクルージングスピードを維持できない場合。
- ホイールのスリップまたはホイールのスピンが検出された場合。（トラクションコントロールシステムをオフにしていない場合は、トラクションコントロールシステムが作動します。）
- スターター/ エンジンストップスイッチを “” にした場合。
- エンジンがストールした場合。
- サイドスタンドが下げられた場合。

設定したクルージングスピードで走行中に、

クルーズコントロールシステムが上記の条件で停止した場合、クルーズコントロールシステム表示灯 “ ” は消灯し、クルーズコントロール設定表示灯 “SET” は 4 秒間点滅してから消灯します。
設定したクルージング速度で走行していない場合は、スターター / エンジンストップスイッチを “ ” 位置に設定する、エンジンがストールする、またはサイドスタンドが下げられると、クルーズコントロールシステム表示灯 “ ” が消灯します。（クルーズコントロール設定表示灯 “SET” は点滅しません。）
クルーズコントロールシステムが自動的に停止した場合は、停車してから車両が運転に適した状態であることを確認してください。
クルーズコントロールシステムを再度使用するには、電源スイッチを使用してシステムを作動させてください。

要　点

上り坂または下り坂を走行する際、クルーズコントロールシステムは場合により、設定したクルージングスピードを維持できない可能性があります。

- 上り坂を走行する場合、実際の走行スピードは設定したクルージングスピードを下回る可能性があります。この場合は、スロットルを使用して必要な走行スピードまで加速してください。
- 下り坂を走行する場合、実際の走行スピードは設定したクルージングスピードを上回る可能性があります。この場合、設定スイッチを使用して設定済のクルージングスピードを調節することはできません。スピードを落とすにはブレーキ操作が必要ですが、ブレーキをかけるとクルーズコントロールシステムは停止します。

JAU91323

D-MODE（ドライブモード）

D-MODE は電子制御により、走行モードを選択できるシステムです。

JWA15341

⚠ 警 告

走行中はドライブモードの設定変更をしないでください。

D-MODE にはエンジンレスポンスや出力を制御する 4 つのモードがあり、ライダーの好みや走行環境に応じて選択できます。

D-MODE 1 - スポーティーなエンジンレスポンスです。

D-MODE 2 - 標準的なエンジンレスポンスです。

D-MODE 3 - 穏やかなエンジンレスポンスです。

D-MODE 4 - 穏やかなエンジンレスポンスでエンジン出力を制限します。

要　点

- 選択されたモードは、モード表示に表示されます。（4-12 ページ参照）
- 選択されたモードは、電源がオフになっても記憶されます。
- D-MODEはMODEスイッチで切り替えます。くわしくは、4-5 ページを参照してく

ください。

3

JAU91434

TCS-MODE（トラクションコントロールシステムモード）

このモデルは、トラクションコントロールシステム、SCS（スライドコントロールシステム）、LIF（リフトコントロールシステム）が装備されています。これらの設定は TCS-MODEで4つのモードに切り替えられます。

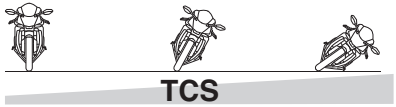
MODE	トラクションコントロールシステム	SCS	LIF
TCS-MODE 1	1	1	1
TCS-MODE 2	2	2	2
TCS-MODE M	1, 2, 3	OFF, 1, 2, 3	OFF, 1, 2, 3
TCS-MODE OFF	OFF	OFF	OFF

TCS-MODE M は、メニュー画面で設定できます。くわしくは 4-16 ページを参照してください。

トラクションコントロールシステム

トラクションコントロールシステムは、加速時のスリップを抑制します。センサーが後輪のスリップを検知すると、トラクションコントロールシステムはスリップ状態が回復するまで、エンジン出力を制御します。このとき、スタビリティコントロール表示灯 “SC” が点滅し、ライダーにトラクションコントロールシステムが有効になったことを知らせます。

トラクションコントロールシステムは、車両の傾斜角度に応じて自動的に制御します。最適な加速のため、車両が直立しているときはトラクションコントロールシステム制御が抑えられ、コーナリング時には、トラクションコントロールシステム制御が強くなります。



要　点

- トラクションコントロールシステムは、車両が段差を乗り越えたときなどに作動することがあります。
- トラクションコントロールシステムや他のシステムが作動すると、エンジン音や排気音がわずかに変化することがあります。
- トラクションコントロールシステムをオ

フにするには、モードスイッチを操作して、TCS-MODE を OFF に設定します。くわしくは 4-5 ページを参照してください。
- TCS-MODE をオフに設定すると、トラクションコントロールシステム、SCS、LIF も自動的にオフになります。

JWA15433

⚠警 告

トラクションコントロールシステムは、道路の状況に合わせた適切な走行をするための機能ではありません。またトラクションコントロールシステムは、スピードが出過ぎたまま曲がり角に進入するときや、車体を大きく傾斜させた状態での急な加速、ブレーキ中に起こるトラクションの低下やフロントホイールのスリップを防ぐことができません。他の車と同じように、滑りやすい路面に進入するときは注意して走行し、特に滑りやすい路面の走行はやめてください。

車両の電源をオンにすると、トラクションコントロールシステムは自動的にオンになります。トラクションコントロールシステムのオン、オフは、車両の電源がオンの状態で車両が停車しているときのみ切り替えられます。

要 点

車両が泥や砂、その他のやわらかい路面にはまった際は、TCS-MODE を OFF にして、後輪の回転制御を停止します。

JCA16801

注 意

必ず指定タイヤを使用してください。（7-9 ページ参照）指定サイズ以外のタイヤを使用すると、トラクションコントロールシステムはタイヤの回転を正確に制御することができません。

SCS（スライドコントロールシステム）

SCS は、後輪の横すべりを検知したとき、IMU（慣性計測装置）からの情報に基づきエンジン出力を制御します。このシステムは、スムーズな走行をするためにトラクションコントロールシステムを支援します。

LIF（リフトコントロールシステム）

LIF は、発進時やコーナー出口からの加速時に前輪が浮き上がることを抑制します。前輪の浮き上がりを検知すると、エンジン出力を調整し、最適な加速が得られるよう制御します。

JAU91341

クイックシフター

クイックシフターは、電子制御により、クラッチ操作なしでのシフトチェンジを可能にしています。シフトロッド部にあるセンサーがシフトレバーの動きを検知すると、エンジン出力が調整され、変速が可能になります。

クイックシフターは、クラッチレバーが握られているときは機能しません。クイックシフターがオンになっていても、クラッチレバーを使用した通常の操作が可能です。クイックシフターの状態については、クイックシフター表示を確認してください。

クイックシフターの状態	クイックシフター表示
シフトアップ可能	QS ▲▽
シフトダウン可能	QS △▼
クイックシフター 使用不可	QS △▽
クイックシフター オフ	QS △▽

シフトアップ操作の可能な条件
- 車両の速度が 20 km/h 以上
- エンジン回転数が 2200 r/min 以上
- 加速時（スロットルを開けている状態）

シフトダウン操作の可能な条件

- 車両の速度が 20 km/h 以上
- エンジン回転数が 2000 r/min 以上
- エンジン回転数がレッドゾーンより十分に低い
- 減速時かつスロットルが完全に閉じた状態

要　点

- QS ▲ と QS ▼ は個別に設定できます。
- ギヤをニュートラルにするとき、またはニュートラルから他のギヤへシフトチェンジするときは、クラッチレバーを使用してください。

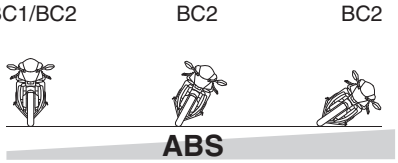
JAU91350

BC（ブレーキコントロールシステム）

BC は、ブレーキ操作によりホイールがロックされたとき、前後輪それぞれのブレーキの油圧を個別に調整します。このシステムは、2 つの設定ができます。

BC1 は、標準の ABS 制御です。走行速度とホイールの回転速度からブレーキ圧を調整します。車体が直立した状態でブレーキをかけたとき、最大限の効果を得られるように設計されています。

BC2 は、IMU からの情報に基づきコーナリング時の制動力を調整し、ホイールがスリップすることを抑制します。



JWA20891

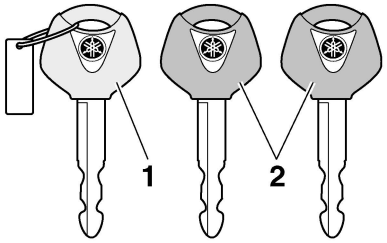
⚠警 告

ブレーキコントロールは、適切な走行やブレーキ技術に代わるものではありません。過度な速度により制動距離が長くなることや、滑りやすい路面でのスリップを防ぐことはできません。

JAU33073

キーの取り扱い

マスコット部が赤いメインキーが1本とマスコット部が黒いサブキーが2本あります。メインキーはサブキーの ID を登録するときに必要な大切なキーですので、普段は車の操作には使用しないでください。車の操作には、必ずサブキーを使用してください。



1. メインキー（赤）
2. サブキー（黒）

JCA12773

注 意

キーを取り扱うときには、下記の内容を必ず守ってください。

- メインキーは大切に保管し、紛失しないよう注意してください。メインキーを紛失するとイモビライザーユニットにサブキーのIDを登録することができなくなります。また、3 本のキー全てを紛失した場合は、イモビライザーシステムの構成部品全てを交換しなければなりません。
- キーを水に浸けないでください。
- キーを高温になる場所に置かないでください。
- キーに磁気を帯びたものを近づけないでください。
- キーに電波を発信するものを近づけないでください。
- キーを落として強い衝撃を与えたり、重いものを載せたりしないでください。
- キーを削ったり、穴を開けたりして形状を変えないでください。
- キーを分解しないでください。
- 複数のイモビライザーキー（この車のキーも含みます。）を同じキーリングにつけたり、メインスイッチに他のイモビライザーシステムを近づけたりしないでください。ID の認識を妨げ、エンジンの始動ができなくなることがあります。
- 金属製のキーホルダーは使用しないでください。また、リングなどに複数のキーをつないで使用しないでください。走行中にキーホルダーや他のキーがカバーなどの部品に当たり、傷付きの原因となる場合があります。キーホルダーは、布製または皮製のものをお勧めします。

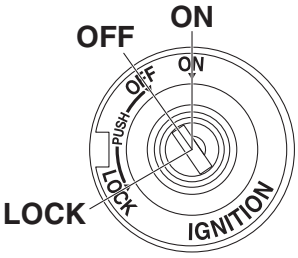
JAU26895

イモビライザーシステム

この車には、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。イモビライザーシステムとは、メインキーおよびサブキーにトランスポンダ（固有の ID を持った発信機）を内蔵しており、あらかじめ車両本体のイモビライザーユニットに登録された ID のキー以外ではエンジンの始動ができないようにしたシステムです。（詳細は 4-8 ページを参照してください。）

JAU10462

メインスイッチ



メインスイッチはエンジンの始動と停止、ブレーキランプや方向指示灯などの電源の「入 / 切」、ハンドルロックを行います。

JWA11621

⚠警 告

走行中にメインスイッチを OFF や LOCK の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

JCA11972

注 意

エンジンをかけないでメインスイッチを ON のままにしたり、エンジン始動後アイドリング状態を長時間続けると、バッテリーあがりの原因となります。

要 点

盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

JAU90040

ON

全ての電気回路に電源が供給され、メーター灯、テールランプ、ナンバー灯とマーカーランプが点灯し、エンジンを始動させることができます。キーを抜き取ることはできません。

要 点

- エンジンが始動すると、ヘッドライトが自動的に点灯します。エンジンが止まっても車両の電源をオフにするまで点灯し続けます。
- スタータースイッチを押して、エンジンが始動しないときにもヘッドライトが点灯することがありますが、異常ではありません。

JAU46011

OFF

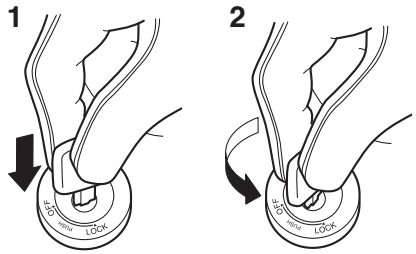
全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。キーを抜くことができます。

JAU73810

LOCK

ハンドルがロックされます。全ての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。

ハンドルロックのしかた



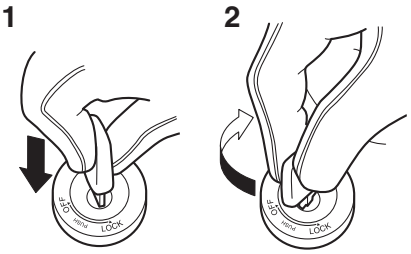
1. 押す
2. 回す

1. ハンドルを左または右にいっぱいに切ります。
2. OFF の位置でキーを押し込み、そのまま LOCK まで回します。
3. キーを抜きます。

要　点

ロックしにくいときは、ハンドルを少し左右に動かしながらキーを回します。

ハンドルロックの解除のしかた



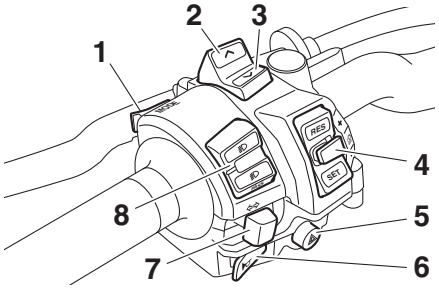
1. 押す
2. 回す

キーを押しこみ、そのまま OFF まで回します。

JAU6605A

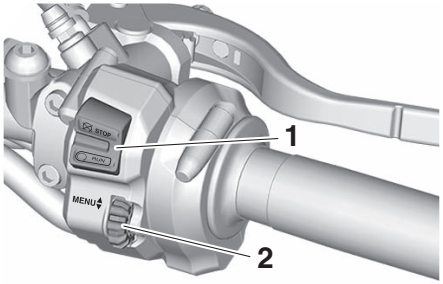
ハンドルスイッチ

<左>



1. MODE スイッチ
2. MODE アップスイッチ
3. MODE ダウンスイッチ
4. クルーズコントロールスイッチ
5. ハザードスイッチ “⚠”
6. ホーンスイッチ “”
7. 方向指示器スイッチ “⇦/⇨”
8. ヘッドライト上下切り替え / パッシングライトスイッチ “≡D/≡D/PASS”

<右>



1. スターター／エンジンストップスイッチ “⏻/⏻/⊠”
2. ホイールスイッチ “MENU”

JAU91630

ヘッドライト上下切り替え／パッシングライトスイッチ “≡D/≋D/PASS”

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えたり、パッシング（スイッチを押している間、ヘッドライトの上向きも点灯）させるスイッチです。

また、ラップタイマーを使用している場合は、ラップタイムの計測を開始します。

≡D（上向き）：遠くを照らします。

≋D（下向き）：近くを照らします。

ヘッドライトの配光が下向きのときに “PASS” 側を押すと、ヘッドライトの上向きも点灯します。先行車の追い越しなどで、他車に合図をするときに使用します。

要　点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向きにしてください。

JAU85490

方向指示器スイッチ “⇦/⇨”

進路変更の合図に使用します。

操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。

消灯するときは、スイッチを押します。

⇨：右側の方向指示灯が点滅します。

⇦：左側の方向指示灯が点滅します。

JWA11641

⚠警 告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

JAU66030

ホーンスイッチ “📯”

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要　点

必要なときにのみ使用してください。

JAU66061

スターター／エンジンストップスイッチ “⏻/⏻/⊠”

スターターでエンジンを始動するには、このスイッチを “⏻” に合わせてから、スイッチの “⏻” 側を押してください。

JCA11882

注 意

- **スターターを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。**
- **エンジンを始動させる前に、6-1 ページの始動手順を参照してください。**

非常時に、エンジンをすぐに停止させるには “⊠” にします。通常は “⏻” にしておきます。

JWA17700

⚠警 告

非常時にスターター／エンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、マフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。

JCA20772

注 意

- **非常時にスターター／エンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、必ず車両の電源をオフにしてください。オ**

ンのままですと、バッテリーあがりの原因となります。

- **走行中に、スターター／エンジンストップスイッチを“⋂”→“⊠”→“⋂”にしないでください。エンジン不調の原因となります。**

要　点

“⊠”にすると、エンジンは始動できません。

JAU91671

ハザードスイッチ“⚠”

車両の電源をオンにした状態で、このスイッチを使用してハザードランプを点滅させます。（全ての方向指示器が点滅します。）

ハザードランプは、故障などの非常時に他車に知らせるために使用します。

ハザードランプは、車両の電源をオンにした状態のみでオンとオフを切り替えることができます。車両の電源をオフ、またはLOCKにしてもハザードランプは点滅し続けます。

ハザードランプを消灯させるには、車両の電源をオンにした状態で、ハザードスイッチを再度操作してください。

JCA11891

注 意

バッテリーあがりを防ぐため、ハザードランプを長時間使用しないでください。

JAU73952

クルーズコントロールスイッチ

クルーズコントロールシステムの説明については、3-1 ページを参照してください。

JAU91365

モードスイッチ“MODE”

モードスイッチを使用して、D-MODE とTCS-MODE の表示を切り換えます。

モードの変更をする 3 つのスイッチがあります。

MODE アップスイッチ－このボタンを押して、選択したモード設定を繰り上げます。

MODE スイッチ－このボタンを押して、D-MODE とTCS-MODE の表示を左から右に切り換えます。

MODE ダウンスイッチ－このボタンを押して、選択したモード設定を繰り下げます。

要　点

- “D-MODE 1”を表示中にMODEアップスイッチを押すと、“D-MODE 4” に切り替わります。“D-MODE 4” を表示中の場合は、MODE ダウンスイッチを押しても“D-MODE 1” に切り替わりません。
- TCS-MODE は、メイン画面からのみオフにすることができます。オフにするには、MODE スイッチを押して TCS-MODE を選択し、OFF が表示されるまで MODE アップスイッチを押します。
- TCS-MODEを再びオンにするには、MODE ダウンスイッチを押します。
- TCS-MODE をオフにすると、トラクションコントロールシステム、SCS と LIF もオフになります。
- モード表示の詳細については、4-12 ページを参照してください。
- TCS-MODE の詳細については、3-4 ページを参照してください。
- D-MODEの詳細については、3-3ページを参照してください。

JAU91374

ホイールスイッチ“MENU▲▼”

ホイールスイッチを操作すると、前回選択していた項目にカーソルが表示されます。

ホイールスイッチは、以下３つの表示を操作します。

- 情報ディスプレイ
- メニュー画面
- グリップウォーマー表示（オプション）

ホイールスイッチは次のように操作します。

上に回す－ホイールを上方向に回すと、上方

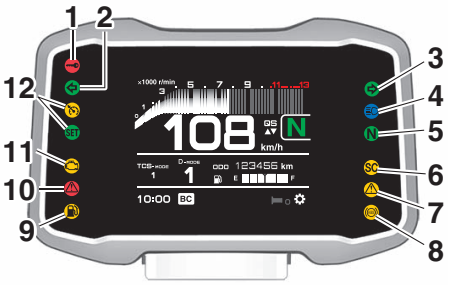
向に移動させたり、設定の値を増加させたりできます。
下に回す－ホイールを下方向に回すと、下方向に移動させたり、設定の値を減少させたりできます。
押す－ホイールを短押しすると、項目の選択や確定ができます。長押しすると、選択した項目をリセットできます。

要　点

- ホイールスイッチを一定時間操作しなかった場合、カーソルは消灯します。
- リセットが可能な項目は、カーソルを項目の上に置いたまま、スイッチを長押ししてリセットします。
- メイン画面と機能についての詳細は、4-9 ページをご参照ください。
- メニュー画面での設定変更についての詳細は、4-15 ページをご参照ください。

JAU4939Z

警告灯と表示灯



1. イモビライザーシステム表示灯 “”
2. 方向指示器表示灯（左）“”
3. 方向指示器表示灯（右）“”
4. ヘッドライト上向き表示灯 “”
5. ニュートラルランプ “”
6. スタビリティコントロール表示灯 “”
7. 補助システム警告灯 “”
8. ABS 警告灯 “”
9. 燃料残量警告灯 “”
10. 油圧・水温警告灯 “”
11. エンジン警告灯 “”
12. クルーズコントロール表示灯 “”/“”

JAU88280

方向指示器表示灯 “”/“”
方向指示器に合わせて点滅します。

JAU88300

ニュートラルランプ “”
ギヤがニュートラルのとき点灯します。

JAU88310

ヘッドライト上向き表示灯 “”
ヘッドライトを上向きにすると点灯します。

JAU91001

燃料残量警告灯 “”
燃料残量が約 2.7 L 以下になると点灯します。早めに給油してください。
燃料残量警告灯回路が故障した場合、警告灯が繰り返し点滅します。故障した場合は、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

要　点

車両の電源をオンにしたとき、警告灯が数秒間点灯し、その後消灯します。点灯しないときや消灯しないときは、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JCAE0121

注　意

燃料を完全に使い切らないでください。触媒が損傷するおそれがあります。

JAU91650

クルーズコントロール表示灯 “”/“SET”

これらの表示灯は、クローズコントロールシステムが有効になると点灯します。(3-1 ページ参照)

要　点

車両の電源をオンにしたとき、これらの表示灯が数秒間点灯し、その後消灯します。点灯しない場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAU88331

エンジン警告灯 “”

エンジン異常が発生したとき、警告灯が点灯します。警告灯が点灯したときは、ヤマハ販売店で車載故障診断装置の点検を受けてください。

要　点

車両の電源をオンにすると、警告灯が数秒間点灯し、その後消灯します。警告灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JCA26820

注 意

エンジン警告灯が点滅したときは、低速で走行してください。マフラーの中の触媒装置が損傷する可能性があります。

要　点

このエンジンは自己診断機能により繊細に監視され、排気ガス制御システムの劣化や故障を検知します。そのため、改造、整備不良や不適切な車両の使用により、エンジン警告灯が点灯する場合があります。故障以外の原因による警告灯の点灯を避けるために、以下のことを守ってください。

- エンジンコントロールユニットのソフトウェアを書き換えないでください。
- エンジンコントロールユニットに影響を与えるような電装アクセサリーを使用しないでください。
- 標準仕様以外のスパークプラグ、フューエルインジェクターを使用したり、サスペンション、排気系などの社外アクセサリーを使用したりしないでください。
- ドライブチェーン、スプロケット、ホイール、タイヤなどの仕様を変更しないでください。
- O2 センサー、エアインダクションシステム、触媒や EXUP などの排気系部品を外したり、改造したりしないでください。
- ドライブチェーンを正しくメンテナンスしてください。
- タイヤの空気圧を正しくメンテナンスしてください。
- ブレーキペダルの高さを正しくメンテナンスして、リヤブレーキを引きずらないようにしてください。
- スロットルグリップの開閉を過度に繰り返す、バーンアウト、ウィーリーや、半クラッチの多用などの行為はしないでください。

JAU91500

ABS 警告灯 “”

車両の電源をオンにしたとき、警告灯が点灯し、走行すると消灯します。走行中に ABS 警告灯が点灯したときは、ABS が正しく作動していないおそれがあります。

要　点

警告灯が点灯しなかったり、走行中に警告灯が点灯する場合は直ちにヤマハ販売店で車両の点検を受けてください。

JWA21120

⚠ 警 告

5 km/h以上の速度で走行しても警告灯が消灯しない、または走行中に警告灯が点灯したとき :

- **急ブレーキなどでホイールがロックしな**

いよう、慎重にブレーキをかけてください。
- **直ちにヤマハ販売店でブレーキシステムの点検を受けてください。**

JAU88350

イモビライザーシステム表示灯 “ ”

この車は、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。車両の電源をオフにすると、イモビライザーシステムが機能し、約 30 秒間経過するとイモビライザーシステム表示灯が点滅を始めます。約 24 時間経過すると表示灯は消えますが、イモビライザーシステムは機能しています。

要　点

車両の電源をオンにしたとき、表示灯が数秒間点灯し、その後消灯します。表示灯が全く点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

イモビライザーキーの認証エラー

イモビライザーシステム表示灯が、ゆっくり 5 回、すばやく 2 回の点滅を繰り返すときは、キーの ID の認証が妨げられた可能性があります。この場合は、次のことを試してみてください。

1. 他のイモビライザーキーがメインスイッチの近くにないことを確認します。
2. メインキーでエンジンを始動します。
3. エンジンが始動したら、エンジンを止め、サブキーで始動できるか確認します。
4. エンジンの始動ができないキーがあった場合には、車と 3 本全てのキーを持って、ヤマハ販売店でキーの再登録を受けてください。

JAU91472

スタビリティコントロール表示灯 “SC”

トラクションコントロールシステム、SCS、または LIF が作動すると、この表示灯が点滅します。また TCS-MODE をオフにすると点灯します。

要　点

車両の電源をオンにしたとき、警告灯が数秒間点灯し、その後消灯します。点灯がしないときや、消灯しないときは、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JCA27222

注 意

IMU の初期化を妨げる可能性があるため、車両の電源をオンにするときは、車両を動かしたり振動を与えたりしないでください。IMU の初期化不良が発生した場合、IMU が正常に初期化されるまで TCS-MODE は OFF の表示となります。

JAU88362

油圧・水温警告灯 “ ”

エンジン油圧が低い、もしくはエンジン冷却水温が高いときに、この警告灯が点灯します。この場合、エンジンをすぐに停止してください。

要　点

- 車両の電源をオンにしたとき、警告灯が点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- 異常が発生したとき、警告灯が点灯し、油圧警告アイコンが点滅します。

JCA22441

注 意

油圧・水温警告灯がエンジン始動後に消灯しない場合や、走行中に点灯した場合は、すぐに停車してエンジンを停止してください。
- **エンジンがオーバーヒートしているときは、水温警告アイコンが点灯します。エンジンを冷ましてください。また、冷却水量を点検してください。（7-7 ページを参照）**
- **エンジンオイルの油圧が低いときは、油圧**

警告アイコンが点灯します。オイル量を点検してください。(7-5 ページを参照)
- **エンジン冷却後やオイル補充後にも警告灯や警告アイコンが点灯したままの場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。点検を受けないまま、引き続き車両を運転しないでください。**

JAU88370

補助システム警告灯 "⚠"

エンジン以外のシステムに異常が発生したとき、警告灯が点灯します。

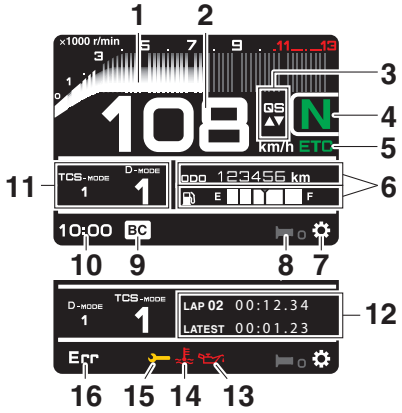
要　点

車両の電源をオンにすると、警告灯が数秒間点灯し、その後消灯します。警告灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAU96242

ディスプレイ

ディスプレイには以下の機能があります。



1. タコメーター
2. スピードメーター
3. クイックシフター表示 "QS"
4. ギヤポジション表示
5. ETC 表示 "ETC" (オプション)
6. 情報ディスプレイ
7. メニュー設定アイコン "⚙"
8. グリップウォーマーアイコン (オプション)
9. ブレーキコントロールアイコン "BC"
10. 時計
11. モード表示
12. ラップタイマー
13. 油圧警告アイコン "🛢"
14. 水温警告アイコン "🌡"
15. 補助システム警告アイコン "🔧"
16. エラーモード警告アイコン "Err"

要　点

このモデルは (TFT LCD) により、様々な光源下での良好なコントラストおよび見易さを実現しています。しかし、場合によっては少し見えにくい部分が出ることもあります。

JWA18210

⚠ 警 告

設定変更をする前に、必ず車両を停止してください。走行中に設定の変更を行うと、操作に気をとられて事故を起こすおそれがあります。

スピードメーター

車の速度を示します。

要　点

- キロメートルとマイルを切り替えることができます。4-18 ページの "Unit" を参照してください。
- 走行前に必ずキロメートルになっていることを確認してください。

タコメーター

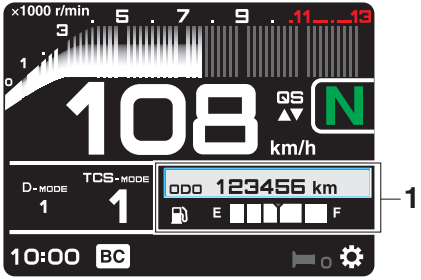
毎分のエンジン回転数を示します。

JCA21840

注 意

エンジン回転数がレッドゾーンに入らないように運転してください。
レッドゾーン : 10600 r/min 以上

情報ディスプレイ



1. 情報ディスプレイ

2 つの車両情報を表示します。表示項目は、次のとおりです。

- ODO: オドメーター
- F-TRIP: フューエルトリップメーター
- TRIP1: トリップメーター 1
- TRIP2: トリップメーター 2
- F.AVE: 平均燃料消費量
- F.CRNT: 瞬間燃料消費量
- A.TEMP: 気温
- C.TEMP: 冷却水温
- 燃料計
- FUEL CON: 燃料消費量
- TRIP TIME: 走行時間

情報ディスプレイは次のように操作します。
ホイールスイッチを回転させて、カーソルをディスプレイ上に移動します。
ホイールスイッチを押すと選択した項目がハイライト表示されます。
ホイールスイッチを回転させて、別の表示項目を選択します。
ホイールスイッチを押して、表示項目を確定します。

要 点

- ラップタイマーモードに入ると、情報ディスプレイの表示がラップタイマーに置き換わります。
- TRIP1、TRIP2、F-TRIP、F.AVE、FUEL CON、TRIP TIME の各項目は、個別にリセットできます。

オドメーター :



オドメーターは、走行距離の合計を表示します。

要 点

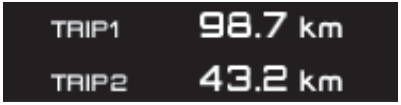
オドメーターは、999999 で固定されます。

フューエルトリップメーター :



燃料タンクの残量が少なくなると、F-TRIP が自動的に表示され、その時点からの走行距離を表示します。
給油後、一定距離を走行すると、F-TRIP は自動的に消灯します。

トリップメーター :



TRIP1 と TRIP2 は、最後にゼロに設定されてからの移動距離を示します。

要 点

TRIP1 と TRIP2 は 9999.9 までカウントを続け、その後リセットされます。

平均燃料消費量 :



平均燃料消費量表示は “km/L” または “L/100km” に設定できます。(4-18 ページ参照)

要 点

平均燃料消費量表示をリセットすると、車両が 1km 走行するまで “--.-” が表示されます。

瞬間燃料消費量 :



瞬間燃料消費量表示は “km/L” または “L/100km” に設定できます。(4-18 ページ参照)

要 点

- 10 km/h 未満で走行している場合は、“--.-” と表示されます。
- 瞬間燃料消費量機能は、一般的な参考のためにのみ使用してください。この数値を使用して、現在の燃料タンクを移動できる距離を推定しないでください。

気温 :



–9 °C から 50 °C の気温を 1 °C 刻みで表示します。表示される気温は、外気温と一致していない場合があります。

要 点

- 検出温度が低い場合は “--” が表示されます。
- 検出温度が高い場合は “--” が表示されます。

冷却水温 :



40 °C から 124 °C の冷却水温を 1 °C 刻みで表示します。

要 点

- 水温が40 °C未満の場合、“Lo” が表示されます。
- 水温が 124 °C 以上の場合、“Hi” が表示されます。

燃料計 :



燃料計は、フューエルタンク内の燃料の量を表示します。燃料計の表示セグメントは、燃料レベルが下がると “F”(満) から “E”(空) に向かって消えます。最後のセグメントが点滅し始めたら、できるだけ早く給油してください。

JCAE0121

注 意

燃料を完全に使い切らないでください。触媒が損傷するおそれがあります。

燃費トリップメーター :



トリップメーターが最後にリセットされてから消費された燃料の量を表示します。

走行時間：



走行時間を表示します。

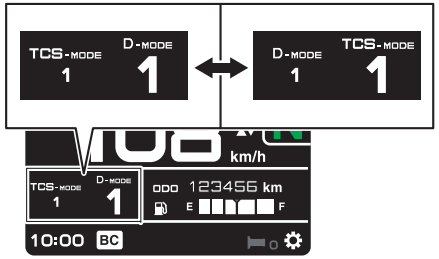
情報ディスプレイ項目のリセット

1. ホイールスイッチを用いて、情報ディスプレイのいずれかをハイライト表示させます。
2. ホイールスイッチを押して、情報ディスプレイを選択します。
3. ホイールスイッチを回して、リセットしたい項目を選択します。
4. 選択した項目がリセットされるまでホイールスイッチを長押しします。

ギヤポジション表示

選択しているギヤポジションを表示します。この車は 6 段変速です。ギヤがニュートラルのときは、ニュートラルランプ “**N**” が点灯し、ギヤポジション表示に “**N**” が表示します。

モード表示



“D-MODE” と “TCS-MODE” の現在の設定が表示されます。拡大表示されている右側のモードは MODE アップ / ダウンスイッチで設定変更します。“MODE” スイッチを使用して “TCS-MODE” と “D-MODE” の表示を左右に切り替えます。
“D-MODE” および、“TCS-MODE” の設定については 3-3 ページを参照してください。

要　点

- エンジン警告灯 “”、補助システム警告アイコン “”、水温警告アイコン “” が点灯している場合、“D-MODE” と “TCS-MODE” の設定変更はできません。
- 車両の電源をオンにすると、以前に選択したモードが表示されます。

トラクションコントロールシステムをオフにするには、“MODE” スイッチで “TCS-MODE” を選択し、“OFF” が表示されるまで、MODE アップスイッチを長押しします。再びトラクションコントロールシステムをオンにするには、MODE ダウンスイッチを押します。(“TCS-MODE” は以前の設定に戻ります。)

要　点

- “TCS-MODE” を “OFF” にすると、トラクションコントロールシステム、SCS、LIF もオフになります。
- “TCS-MODE OFF”と“TCS-MODE M”は車両が停止しているときのみ選択できます。

時計

この時計は 12 時間表示です。
時計の設定については、4-18 ページを参照してください。

クイックシフトシステム表示 “QS”

クイックシフトシステムを使用してシフトアップ / ダウンが可能な場合、▲または▼が緑色で表示されます。
クイックシフトシステムが使用できない場合、△または▽が白色で表示されます。

クイックシフトシステムをオフにした場合は、“QS” と△、▽は消灯します。
クイックシフトシステムのオン / オフの切り換えはメニュー画面で行えます。(4-16 ページ参照)

要　点

クイックシフトシステムのシフトアップ / ダウン機能は、それぞれ個別に設定できます。
クイックシフトシステムの詳細は、3-5 ページの “ クイックシフター ” を参照してください。

メニュー設定アイコン “⚙”

メニュー設定アイコンを選択し、ホイールスイッチを内側に押すと、メニュー画面が表示されます。(4-15 ページ参照)

グリップウォーマーアイコン（オプション）

グリップウォーマーは、エンジン始動中にのみ使用できます。設定には 10 段階あり、使用中は、アイコン部に 1(最小) から 10(最大) を表示します。
グリップウォーマーを使用するには、ホイールスイッチを回しグリップウォーマーアイコンにカーソルを合わせます。
ホイールスイッチを押して、グリップウォーマーアイコンを選択します。
選択したら、ホイールスイッチを上下に回転させて温度レベルを調整します。
ホイールスイッチを押して温度設定を決定します。

JCA17932

注 意

- **グリップウォーマーを使用するときは、必ずグローブを着用してください。**
- **暖かい日は、グリップウォーマーを使用しないでください。**
- **ハンドルバーグリップまたはスロットルグリップが摩耗したり破損したりした場合は、グリップウォーマーの使用を止め、グリップを交換してください。**

グリップウォーマーアイコンにカーソルを合わせ、ホイールスイッチを長押しすることで、グリップウォーマーにカーソルをロックすることができます。
温度設定モードに入り直すことなく、ホイールスイッチで温度を調節できます。
カーソルのロックを解除するには、ホイールスイッチを長押しします。

要　点

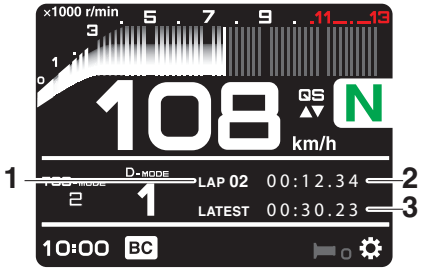
現在のグリップウォーマーの温度設定は、車両の電源をオフにしても保存されます。

ETC 表示 “ETC”（オプション）

ETC 車載器を接続すると、車載器の状態が表示されます。
車載器が利用できる時は緑色、利用できない時は赤色で “ETC” が表示されます。

ラップタイマー

ラップタイマーは、メニュー画面から起動できます。(4-15 ページ参照)
ラップタイマーを起動させると、情報ディスプレイは次のように表示されます。



1. 周回数
2. ラップタイム
3. 最新ラップタイム表示 “LATEST”

ラップタイマーを使用するには、ヘッドライ

ト上下切り替え / パッシングライトスイッチの “PASS” 側を押します。
“PASS” を押すごとに周回数が増え、現在のラップタイムをリセットします。
ラップタイマーを一時停止するには、ホイールスイッチを押します。
計測を再開するには、“PASS” スイッチを押します。
ラップタイマーを終了するには、メニュー画面でオフにします。（4-15 ページ参照）

要　点

- ラップタイマーを使用するには、エンジンが始動している必要があります。
- “PASS”　スイッチを押すとパッシングライトが点灯します。
- ラップタイマーが一時停止しているときはいつでも、“PASS” スイッチを押して再開できます。

ブレーキコントロールアイコン “BC”
このアイコンは、補助システム警告アイコンおよび水温警告アイコンが表示されると表示されなくなります。
ブレーキコントロールシステムの詳細は、3-6 ページの “BC” を参照してください。

エラーモード警告アイコン “Err”
内部エラー（システムコントローラーとの通信が遮断されたときなど）が発生すると、次のエラー表示が現れます。
“Err” と “SC” は、ECU のエラーを示します。
“Err” のみは、ABS ECU のエラーを示します。

要　点

エラーの種類によっては、ディスプレイは正しく機能せず、車両の設定やトラクションコントロールシステムの設定を変更できないことがあります。また、ABS が正しく作動していない場合があります。ブレーキを使用するときは、十分に注意し、直ちにヤマハ販売店で点検を受けてください。

補助システム警告アイコン “ ”
エンジン以外のシステムに異常が検知されると、この警告アイコンが点灯します。

水温警告アイコン “ ”
エンジン冷却水温が 116 °C 以上になると、この警告アイコンが点灯します。車両を停止させてエンジンをオフにし、エンジンを冷やしてください。

JCA10022

注 意

エンジンがオーバーヒートした場合、エンジンの使用を続けないでください。

油圧警告アイコン “ ”
エンジン運転中に油圧が低下すると、アイコンが点灯します。車両の電源をオンにしたときは、エンジン油圧が掛かっていないため、エンジンを始動するまでこのアイコンが点灯します。

要　点

異常が検知されると、この警告アイコンが繰り返し点滅します。

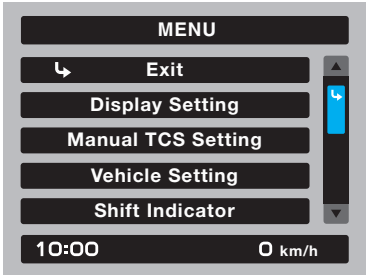
JCA26410

注 意

油圧が低下している場合、エンジンの使用を続けないでください。

JAU9145C

メニュー画面



メニュー画面には、次の設定モジュールがあります。モジュールを選択し、関連する設定の変更をします。

モジュール	説明
Exit	メニュー画面を終了し、メインディスプレイに切り替えます。
Display Setting	ラップタイマーのオン / オフの切り替えと、タコメーターカラーの調整を行います。
Manual TCS Setting	TCS-MODE M のトラクションコントロールシステム /SCS/LIF 設定を行います。
Vehicle Setting	BC/ クイックシフターの設定を行います。
Shift Indicator	シフトタイミングインジケーターのオン / オフの切り替え、および回転数の設定を行います。
Maintenance	定期点検項目のインターバルの表示およびリセットを行います。
Unit	燃料消費単位および、温度単位の設定を行います。
Brightness	画面の明るさを調節します。
Clock	時計の調整を行います。
All Reset	全ての設定を工場出荷時の設定に戻します。

メニュー画面へのアクセスと操作

メニュー画面の使用方法：

ホイールスイッチを上下に回転させ、選択項目のハイライト表示や設定値を変更します。

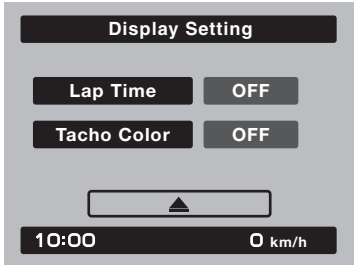
短押しすることで、選択した内容を確定します。

ホイールスイッチを長押しすることで、メニュー画面からメイン画面へ戻ります。

要　点

- 設定画面によっては、上向きの三角マークが表示されます。三角マークを選択すると、設定変更を保存し、画面を一つ前に戻すことができます。
- 車両の動きが検知されると、自動的にメニュー画面を終了し、メイン画面に戻ります。
- 設定変更を確実に保存するには、必ず三角マークから終了してください。長押しして メニュー画面からメイン画面に戻ると、設定変更が保存されない場合があります。

Display Setting



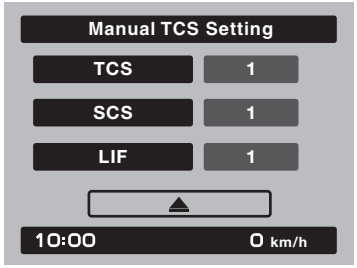
このモジュールでは、ラップタイマーとタコメーターカラーの ON/OFF を切り替えることができます。

ラップタイマーを ON にすると、メイン画面に表示される情報ディスプレイにラップタイマーとラップカウントが表示されます。

ラップタイマーを終了するには、このモジュールでラップタイマーをOFFにします。

タコメーターをカラーモードに変更するには、ON を選択します。

Manual TCS Setting



このモジュールでは、“TCS-MODE M” の設定をカスタマイズできます。

トラクションコントロールシステム
このモデルは可変トラクションコントロールシステムを装備しています。各設定レベルにおいて、車両がより傾くほど、トラクションコントロール（システムの介入）の量が大きくなります。
“TCS-MODE M” の設定レベルは 3 段階あります。
レベル 1 はシステムの介入量が最小で、レベル 3 で最大になります。

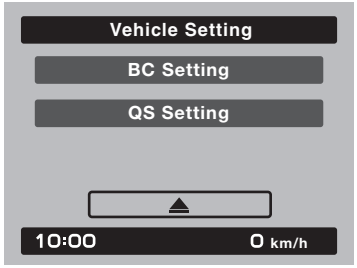
要　点

- トラクションコントロールシステムはメイン画面からのみ MODE スイッチを使用することで、オン / オフを切り替えることができます。
- “TCS-MODE M” ではトラクションコントロールシステムとは別に SCS と LIF をオフにすることができます。
- メイン画面で TCS-MODE をオフにすると、トラクションコントロールシステム、SCS、LIF もオフになります。

SCS
SCS は「OFF、1、2、または3」に設定できます。
OFF にするとスライドコントロールシステムはオフになります。レベル 1 はシステムの介入量が最小で、レベル3で最大になります。

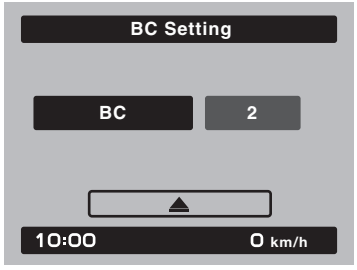
LIF
LIF は「OFF、1、2、または3」に設定できます。
レベル 1 はシステムの介入量が最小で、レベル3でホイールの浮き上がりを最も強く抑制します。
OFF にすると LIF はオフになります。

Vehicle Setting



このモジュールでは、BC およびクイックシフターの設定を調整できます。

BC



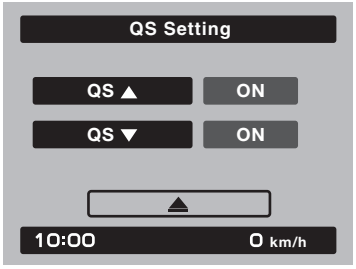
BC には、BC1 と BC2 の 2 つの設定があります。標準の ABS のみが必要な場合は、BC1 を選択します。BC2 を選択すると、ブレーキコントロールシステムがコーナリン

グ中にブレーキ圧を調整し、ホイールがスリップすることを抑制します。

要　点

熟練したライダーやトラック走行の場合、さまざまな条件により、BC2 のブレーキシステムが希望のコーナリングスピードや意図したコーナリングラインに対して、想定よりも早く作動する場合があります。

クイックシフター

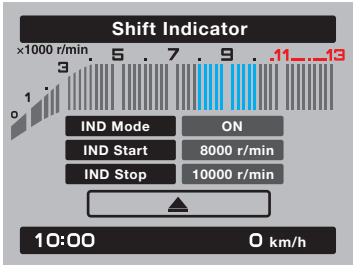


クイックシフター表示は QS △と QS ▽に分かれています。QS △と QS ▽は連動しておらず、個別にオンまたはオフにすることができます。
クイックシフターは ON または OFF を設定できます。
シフトアップまたはシフトダウン機能をオフにした場合、その方向へシフトチェンジする時には、クラッチレバーを使用する必要があります。

要　点

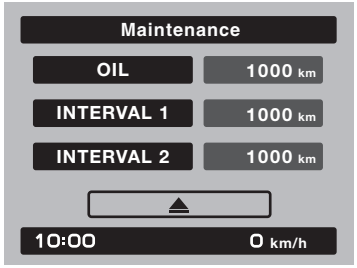
クイックシフターの設定変更ができない場合：ギヤをニュートラルに入れ、車両の電源をオフにしてから、再度、設定変更してください。

Shift Indicator



このモジュールでは、シフトインジケーターを設定できます。エンジン回転数（r/min）が設定範囲になると、ギヤポジション表示が点滅します。
このモジュールには 3 つの設定があります。
“IND Mode” －シフトインジケーターの ON/OFF を設定します。
“IND Start” －シフトインジケーターが点滅を開始する回転数（r/min）を設定します。ホイールスイッチを上下に回転させ調整します。回転数は、200 r/min ずつ増減します。設定可能レンジは 6000 － 12800 r/min の間です。
“IND Stop” －シフトインジケーターの点滅を停止する回転数（r/min）を設定します。ホイールスイッチを上下に回転させ調整します。回転数は、200 r/min ずつ増減します。設定可能レンジは 6200 － 13000 r/min の間です。

Maintenance



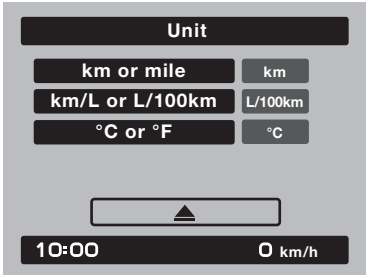
このモジュールでは、エンジンオイル交換時（OIL 項目を使用）からの距離と、ご自身で決めた2つの項目（INTERVAL 1とINTERVAL 2 を使用）の走行距離を表示します。

メンテナンストリップメーターをリセットするには、リセットしたい項目を選択してからホイールスイッチを長押しします。

要　点

メンテナンス項目の名前は変更できません。

Unit

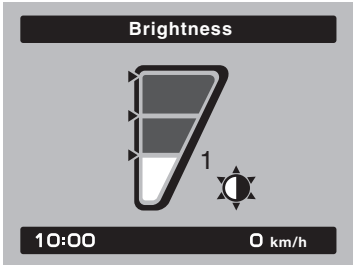


このモジュールでは、キロメートルとマイルの単位の切り替えができます。
キロメートルを選択しているとき、燃料消費単位は“km/L”または“L/100km”に切り替えることができます。マイルを選択しているときは、“MPG”が表示されます。
温度の単位は °C（摂氏）と °F（華氏）を切り替えることができます。

要　点

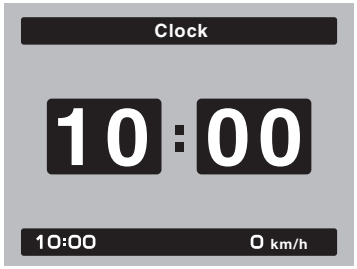
走行前に必ずキロメートル単位になっていることを確認してください。

Brightness



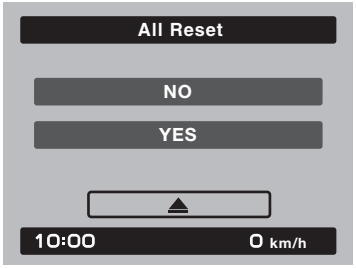
このモジュールでは、ディスプレイ全体の明るさを調整できます。
ホイールスイッチで好みの明るさに調節します。短押しして設定を確定させメニュー画面へ戻ります。

Clock



このモジュールでは、時計の設定ができます。
“Clock”が選択されると、「時」がハイライト表示されます。
ホイールスイッチを回転させ調節します。短押しして「時」を確定させると「分」がハイライト表示されます。
短押しして設定を確定させメニュー画面へ戻ります。

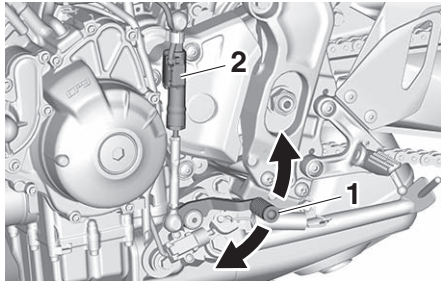
All Reset



このモジュールでは、オドメーターと時計を除き、全ての項目を工場出荷時の設定に戻します。
YES を選択してホイールスイッチを短押しすると、全ての項目がリセットされ、自動的にメニュー画面に戻ります。

シフトペダル

JAU83692



1. シフトペダル
2. シフトセンサー

シフトペダルは車両の左側にあります。シフトアップするには、シフトペダルを上に動かし、シフトダウンするには、シフトペダルを下に動かします。（6-2 ページ参照）
シフトロッドには、クイックシフターの一部であるシフトセンサーが装備されています。シフトセンサーは、シフトペダルを動かしたときの上下の動きと入力の強さを読み取ります。

要　点

意図しないギヤチェンジを防ぐため、クイックシフターは不明確な入力信号を無視するようプログラムされています。ギヤチェンジするときは、素早く十分な強さで操作してください。

JAU91461

ブレーキコントロール (BC)

ブレーキコントロールは、ブレーキを使用し、ホイールがロックされたとき、前後輪それぞれのブレーキの油圧を個別に調整します。このシステムは、メニュー画面より 2 つの設定ができます。(4-16 ページ参照)

BC1 は、標準の ABS 制御です。走行速度とホイールの回転速度からブレーキ圧を調整します。車が直立した状態でブレーキをかけたとき、最大の効果を得られるように設計されています。

BC2 は、標準の ABS 制御に加え、IMU によるコーナリング時の制動力の調整とホイールスリップの抑制をします。

ABS が作動していても、ブレーキは通常の方法で使用できます。ブレーキコントロールが作動したとき、ブレーキレバーまたはブレーキペダルに振動が感じられるかもしれませんが、故障ではありません。

JWA15363

⚠ 警 告

- **ABS は制動距離を短くする装置ではありません。**
- **未舗装路や砂利道など路面の状況により、ABS のない車に比べて制動距離が長くなることがあります。速度はひかえめにし、車間距離を十分にとってください。**

JWA20891

⚠ 警 告

ブレーキコントロールは、適切な走行やブレーキ技術に代わるものではありません。過度な速度により制動距離が長くなることや、滑りやすい路面でのスリップを防ぐことはできません。

ABS は ABS ECU（ABS エレクトロニックコントロールユニット）によってモニターされており、ABS ECU が故障を検知した場合には通常のブレーキの状態になります。

要　点

ABS は、走行速度が 5 km/h を超えると自己診断を行います。自己診断中、ハイドロリックコントロールユニットからクリック音が聞こえ、ブレーキレバーやペダルに振動が感じられる場合がありますが、故障ではありません。

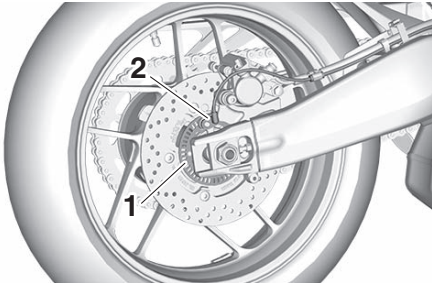
JCA20100

注 意

ホイールセンサーやホイールセンサーローターを傷つけないでください。ABS の性能が低下するおそれがあります。



1. フロントホイールセンサーローター
2. フロントホイールセンサー



1. リヤホイールセンサーローター
2. リヤホイールセンサー

JAU13077

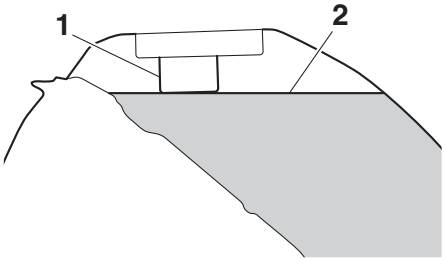
フューエルタンクキャップ

JWA12172

⚠警 告

給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- **給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。**
- **フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があり、ヤケドするおそれがあります。**
- **給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。**
- **給油は、必ず屋外で行ってください。**
- **セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。**
- **給油限度（フィラーチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。**
- **給油後、フューエルタンクキャップを確実に閉めてください。**



1. フィラーチューブ
2. 給油限度

フューエルタンクキャップの開けかた



1. ロックカバー
2. 解除

1. ロックカバーを開けます。
2. キーを差し込み、時計方向に 1/4 回してロックを解除します。
3. フューエルタンクキャップを開けます。

フューエルタンクキャップの閉めかた

1. キーを差し込んだ状態でフューエルタンクキャップを押して閉めます。
2. キーを反時計方向に回してロックし、抜き取ります。
3. ロックカバーを閉めます。

要　点

キーを抜き取ると、フューエルタンクキャップを閉めることはできません。また、フューエルタンクキャップを正しく閉めないと、キーを抜き取ることはできません。

JAU31461

燃料

JAU28333

指定燃料

指定燃料：
無鉛プレミアムガソリン
タンク容量：
約 14 L

JCA12512

注 意

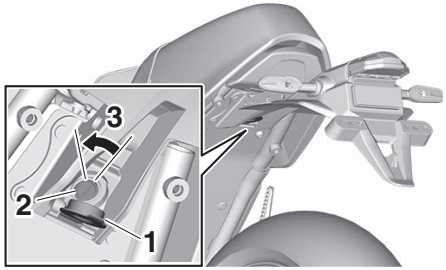
- **必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。**
- **こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。**
- **タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。**

JAU57992

シート

シートの取り外しかた

1. シートロックカバーを開いてキーをシートロックに差し込み、反時計方向に回します。

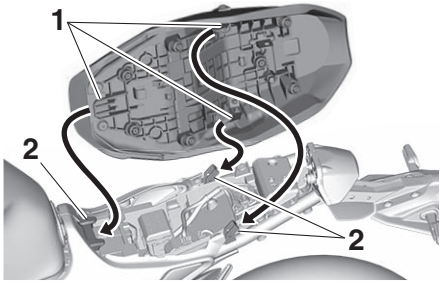


1. シートロックカバー
2. シートロック
3. 解除

2. キーを回した状態でシートを後方へスライドさせ、シートの後部を持ち上げ、シートを取り外します。

シートの取り付けかた

1. シートの突起を図のようにシートホルダーに差し込みます。



1. 突起
2. シートホルダー

2. シートの後部を押し、シートをロックします。
3. キーを抜き取り、ロックカバーを閉めます。

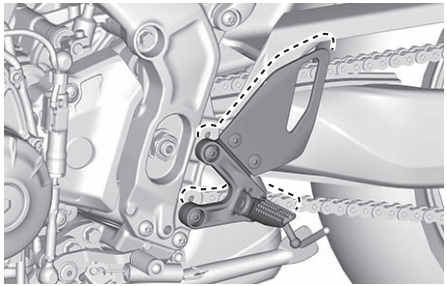
要 点

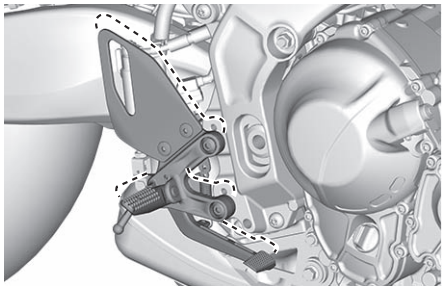
走行前に、必ずシートが確実にロックされていることを確認してください。

JAU91560

ライダーフートレスト位置の調整

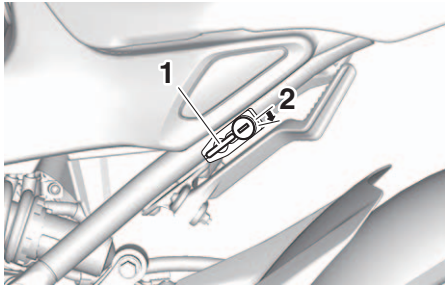
ライダーフートレストは、2 つの位置のうちいずれかに調整することができます。工場出荷時、フートレストは低い位置に調整されています。フートレスト位置の調整はヤマハ販売店に依頼してください。





JAU14283

ヘルメットホルダー



1. ヘルメットホルダー
2. 解除

キーでロックを解除し、ヘルメットのあごひもの金具部分を掛けてロックします。

JWA11651

⚠ 警 告

ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車の部品に損傷を与えたり、またヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

要 点

ヘルメットホルダーは、常にロックしておいてください。

JAU33144

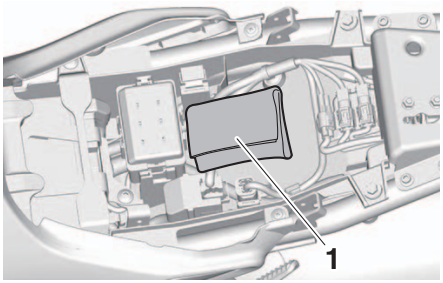
書類入れ

シートを外すと書類入れ（収納用ポーチ）があります。（4-22 ページ参照）車検証、保険証、メンテナンスノートはビニール袋に入れ、書類入れに保管してください。書類入れは二つ折りにし、ゴムバンドで固定してください。

JCA28461

注 意

電子部品（IC チップ）を内蔵した電子車検証は、IC タグを損傷しないように大切に保管してください。

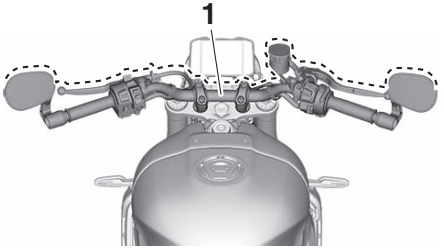


1. 書類入れ

JAU46833

ハンドル位置の調整

ハンドルは、運転者の好みに合わせて 2 つの位置のうちいずれかに調整することができます。ハンドル位置の調整はヤマハ販売店に依頼してください。



1. ハンドル

JAU76345

フロントフォークの調整

左右のフロントフォークには、スプリングプリロードアジャスターが装備されています。右側フロントフォークには伸側減衰力アジャスターが、左側フロントフォークには圧側減衰力アジャスターが装備されています。

JCA10102

注 意

調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

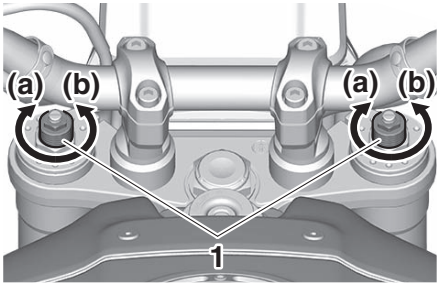
スプリングプリロード

JWA14671

⚠警 告

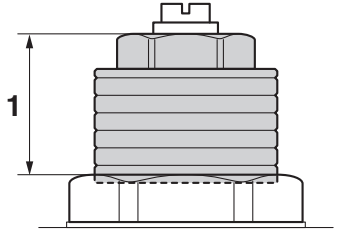
スプリングプリロードアジャスターは左右同じ位置に調整してください。左右が異なると操縦安定性に悪影響をおよぼします。

プリロードアジャスターを (a) 方向に回すと、スプリングプリロードが大きくなり、(b) 方向に回すと小さくなります。



1. スプリングプリロードアジャスター

スプリングプリロードのセッティングは、図のセット長 A を測定して決めます。セット長 A を長くすると、スプリングプリロードは小さくなり、短くすると大きくなります。

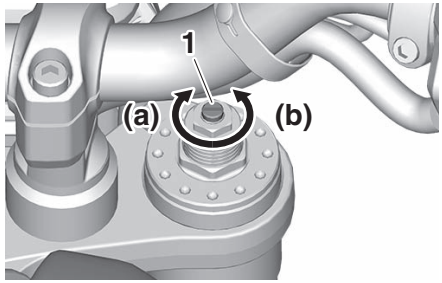


1. セット長 A

スプリングプリロード：
最小（ソフト）：
セット長 A = 19.0 mm
標準：
セット長 A = 14.0 mm
最大（ハード）：
セット長 A = 4.0 mm

伸側減衰力

伸側減衰力は右側フロントフォークで調整します。
減衰力アジャスターを (a) 方向に回すと、伸側減衰力が強くなり、(b) 方向に回すと弱くなります。
減衰力の調整は、アジャスターを (a) 方向に止まるまで回し、(b) 方向へ戻すクリック段数を数えて行います。



1. 伸側減衰力アジャスター

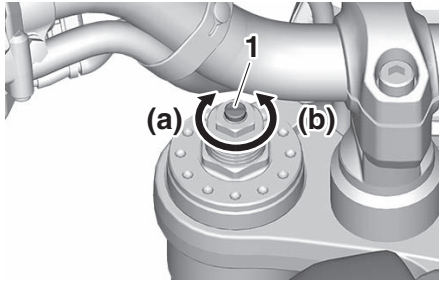
伸側減衰力：
最小（ソフト）：
(b) 方向へ 11 段
標準：
(b) 方向へ 6 段
最大（ハード）：
(b) 方向へ 1 段

要　点

- アジャスターを (a) 方向に回すと、止まる位置と1段の位置が同じになることがあります。
- アジャスターを (b) 方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

圧側減衰力

圧側減衰力は左側フロントフォークで調整します。
減衰力アジャスターを (a) 方向に回すと、圧側減衰力が強くなり、(b) 方向に回すと弱くなります。
減衰力の調整は、アジャスターを (a) 方向に止まるまで回し、(b) 方向へ戻すクリック段数を数えて行います。



1. 圧側減衰力アジャスター

圧側減衰力：
最小（ソフト）：
(b) 方向へ 11 段
標準：
(b) 方向へ 6 段
最大（ハード）：
(b) 方向へ 1 段

要　点

- アジャスターを (a) 方向に回すと、止まる位置と1段の位置が同じになることがあります。
- アジャスターを (b) 方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

JAU94912

リヤクッションの調整

リヤクッションには、スプリングプリロードアジャスターと伸側減衰力アジャスターが装備されています。

JWA12441

⚠警 告

シートに人を乗せて調整をしないでください。車が動き、手などに思わぬケガをすることがあります。

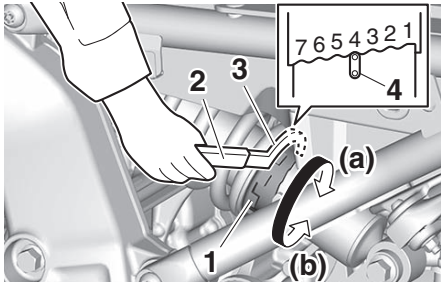
JCA10102

注 意

調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

スプリングプリロード

1. サイドカバーを取り外します。(7-2ページ参照)
2. プリロードアジャスターを (a) 方向に回すと、スプリングプリロードが大きくなり、(b) 方向に回すと小さくなります。アジャスターの切り欠きを、リヤクッションのインジケーターに合わせます。



1. スプリングプリロードアジャスター
2. エクステンション
3. 調整レンチ
4. インジケーター

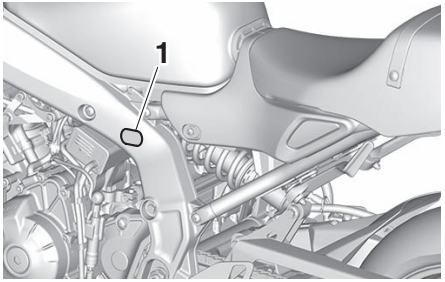
要　点

サービスツール内の調整レンチとエクステンションを使って調整を行います。

スプリングプリロード：
最小（ソフト）：
1 段
標準：
5 段
最大（ハード）：
7 段

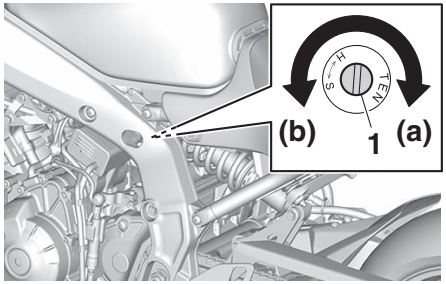
伸側減衰力

1. キャップを取り外します。



1. キャップ

2. 減衰力アジャスターを(a)方向に回すと、伸側減衰力が強くなり、(b) 方向に回すと弱くなります。
   減衰力の調整は、アジャスターを (a) 方向に止まるまで回し、(b) 方向へ戻す回転数を数えて行います。



1. 伸側減衰力アジャスター

伸側減衰力：
最小（ソフト）：
(b) 方向へ 2+1/2 回転
標準：
(b) 方向へ 1 回転
最大（ハード）：
(b) 方向へ 0 回転

要　点

アジャスターを (b) 方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

JWA10222

⚠ 警 告

リヤクッションユニットには高圧窒素ガスが封入されています。リヤクッションユニットを取り扱う場合は、必ず下記のことを厳守してください。

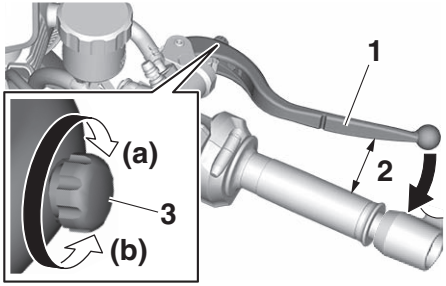
- **シリンダー本体を加工または分解しないでください。**
- **リヤクッションユニットを火気の中に投げ込まないでください。高温にさらすとガスが膨張し、爆発するおそれがあります。**
- **シリンダーを変形させたりダメージを与えないでください。これを行うと、減衰力が低下するおそれがあります。**
- **損傷または変形したリヤクッションユニットを、ご自分で処分しないでください。リヤクッションユニットの処分が必要なときは、ヤマハ販売店にご相談ください。**
- **点検整備については、必ずヤマハ販売店にて実施してください。**

JAU94670

ブレーキレバーの握り調整

手の大きさに合わせて、ブレーキレバーの握り幅を調整できます。

握り幅の調整は、レバーを前側に押しながらアジャスターを回します。アジャスターを (a) 方向に回すと握り幅が広くなり、(b) 方向に回すと狭くなります。



1. ブレーキレバー
2. 握り幅
3. アジャスター

JAU77390

DC コネクター

この車には DC コネクターとグリップヒーター用の DC コネクターが搭載されています。ご使用については、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

JAU92960

ETC コネクター

この車には ETC コネクターが搭載されています。ご使用については、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

JAU15306

サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

要　点

この車にはサイドスタンドスイッチが装備されています。（サイドスタンドスイッチについては次の項目を参照してください。）

JWA10242

⚠警 告

サイドスタンドを下ろした状態で、またはサイドスタンドが正しく上がらない（上がった状態にならない）場合、車を運転しないでください。サイドスタンドが地面に接し、操縦安定性を損なうことがあります。ヤマハのイグニッションサーキットカットオフシステムは、発進前にサイドスタンドの上げ忘れを防止するよう設計されています。従って、定期的にこのシステムを点検してください。正しく機能しない場合にはヤマハ販売店に修理を依頼してください。

JAU57953

イグニッションサーキットカットオフシステム

このシステムは、ギヤがニュートラル以外に入っているときのエンジン始動を制御します。サイドスタンドが上がっているがクラッチレバーが握られていないとき、もしくはクラッチレバーを握っているがサイドスタンドが下がっているときは、エンジン始動はできません。また、ギヤがニュートラル以外に入った状態でサイドスタンドを下げると、エンジンが停止します。

イグニッションサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って適時点検してください。

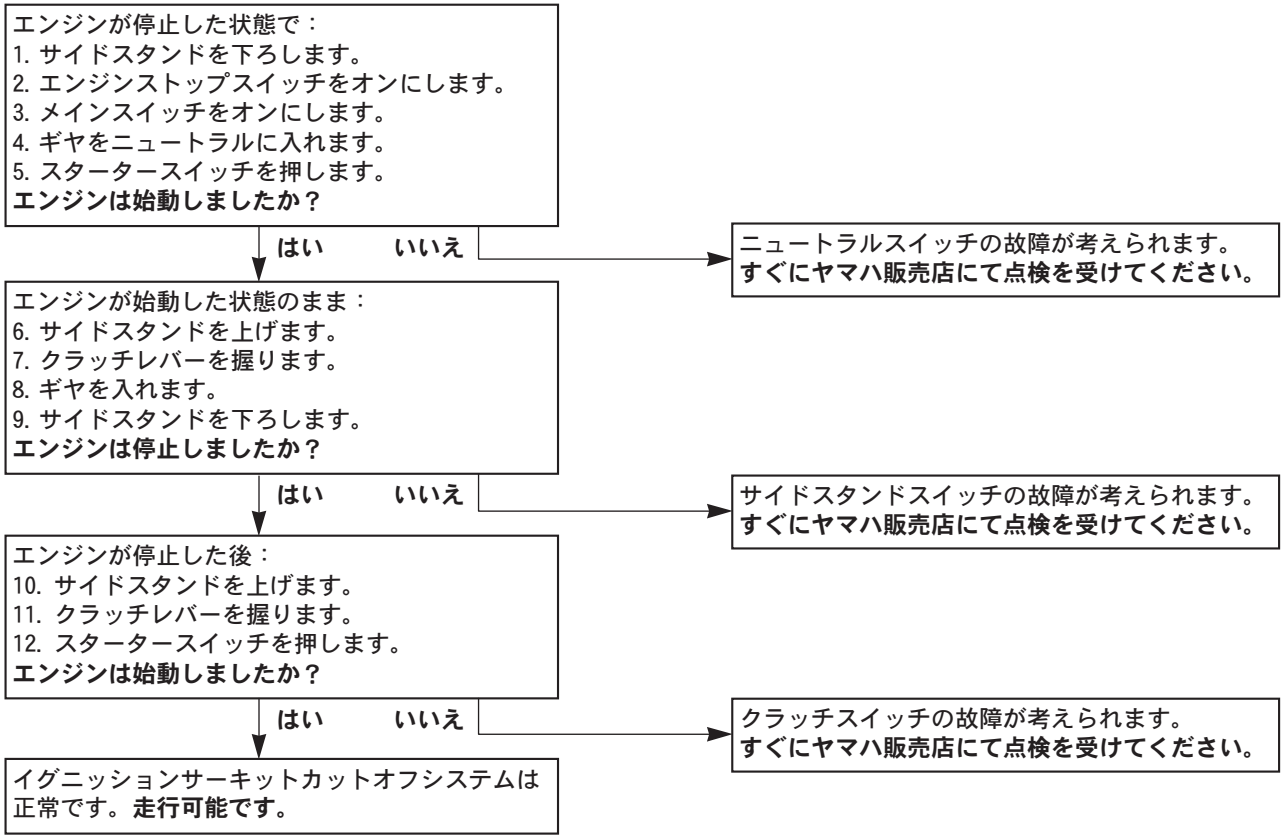
要　点

- この点検は、エンジンが暖まった状態で行ってください。
- スイッチ操作については、4-2ページ、4-3ページを参照してください。

JWA11541

⚠警 告

点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。


エンジンが停止した状態で：
1. サイドスタンドを下ろします。
2. エンジンストップスイッチをオンにします。
3. メインスイッチをオンにします。
4. ギヤをニュートラルに入れます。
5. スタータースイッチを押します。
エンジンは始動しましたか？
はい
いいえ
ニュートラルスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。
エンジンが始動した状態のまま：
6. サイドスタンドを上げます。
7. クラッチレバーを握ります。
8. ギヤを入れます。
9. サイドスタンドを下ろします。
エンジンは停止しましたか？
はい
いいえ
サイドスタンドスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。
エンジンが停止した後：
10. サイドスタンドを上げます。
11. クラッチレバーを握ります。
12. スタータースイッチを押します。
エンジンは始動しましたか？
はい
いいえ
クラッチスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。
イグニッションサーキットカットオフシステムは
正常です。走行可能です。

JAU1559B

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、法または法に準じ、日常の車の使用状況に応じて、使用する人の判断で適時行う点検です。

JWA12032

⚠警 告

- **日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。）

JAU30142

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、7-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

点検箇所	点検内容
ブレーキ	● ブレーキペダルの踏みしろおよびレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。 ● ブレーキ液の量が適当であること。
タイヤ	● タイヤの空気圧が適当であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。（※）
エンジン	● 冷却水の量が適当であること。（※） ● エンジンオイルの量が適当であること。（※） ● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。（※） ● 低速、加速の状態が適当であること。（※）
灯火装置および方向指示灯	● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	● 当該箇所に異常がないこと。

（注）

※ 印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期（長距離走行時や洗車、給油後など）に実施をしてください。

JWA11733

⚠警 告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
- **エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。**
- **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。**
- **走行して点検するときは、交通状況に注意してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

JAU31471

ならし運転

JAU27665

ならし運転のしかた

初回 1 か月目（または 1000 km 走行時）の点検までは、ならし運転をしてください。
ならし運転中はエンジン回転数を 6300 r/min 以下で走行してください。
また、不要な空ぶかしや急加速、急減速はしないでください。
ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

JAU91411

エンジン始動

JWA11562

⚠警 告

- **エンジンを始動するときには、4-29 ページに記述された手順で、イグニッションサーキットカットオフシステムの機能を点検してください。**
- **サイドスタンドを下ろした状態で走行しないでください。**

1. 車両の電源をオンにし、スターター／エンジンストップスイッチが“ ”にセットされていることを確認します。
2. ギヤをニュートラルにします。

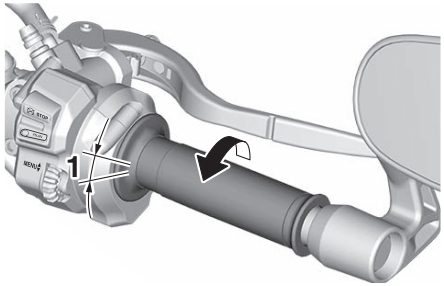
要　点

ギヤをニュートラルにしたとき、ニュートラルランプが点灯しない場合、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

3. スロットルを完全に閉じます。
4. スターター／エンジンストップスイッチの “ ” 側を押して、エンジンを始動します。

要　点

- スターター／エンジンストップスイッチで 5 秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10 秒位休ませてからスターター／エンジンストップスイッチを押してください。
- エンジンが始動しない場合、スロットルグリップを 1/4 回転（20°）開けた状態で再度始動してください。



1. 1/4 回転（20°）

JCA16661

注 意

- **エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ぶかしは避けてください。**
- **長時間のアイドリングはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。**
- **通常のアイドリング回転数を必要以上に高くした状態（スロットルグリップを開け**

て固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。

JAU68221

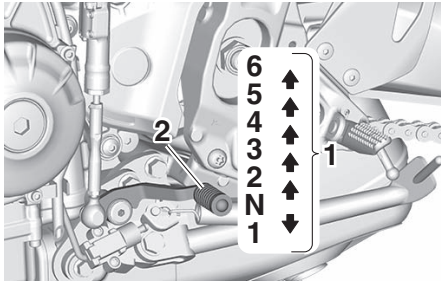
要　点

この車は、以下の機構を装備しています。

- 慣性計測装置（IMU）：メインスイッチがオンのときに車体が転倒した状態になると、エンジンを停止させます。この機構が働くと、車体を起こしてもエンジン停止の制御が継続されるため、スターターモーターは回転しても、エンジンを始動することができません。そのまま始動操作を続けると、バッテリー上がりの原因になることがありますので、このような状態になった場合はメインスイッチを一旦オフにして、再度オンにするリセット操作をしてください。
- エンジン自動停止システム：車両が停止した状態で20分間以上エンジンがかかったままになっていると、エンジンを停止させます。この機能でエンジンが停止した場合は、スタータースイッチを押せば再始動が可能です。

JAU91544

ギヤチェンジのしかた



1. ギヤの位置
2. シフトペダル

この車はリターン式の 6 段変速です。ギヤチェンジは、スロットルグリップを一度戻してからクラッチレバーを握り、シフトペダルで操作します。

要　点

- ニュートラル（**N**）にシフトするには、繰り返しシフトダウンして 1 速ギヤの位置になったところで、わずかにシフトアップします。
- この車はクイックシフターを装備しています。（3-5 ページ参照）

JCA22523

注 意

- **シフトペダルは、踏みごたえがあるまで確実に操作してください。**
- **ギヤがニュートラル位置であっても、エンジンを停止したまま長い間惰性走行を行ったり、長い距離をけん引したりしないでください。エンジンが停止しているとトランスミッションの潤滑が不十分になり、トランスミッションが損傷するおそれがあります。**
- **クイックシフターを用いる場合を除き、クラッチレバーを確実に握らずにギヤチェンジしたり、無理なギヤチェンジは、チェンジ機構の故障の原因になります。**

JAU64130

ギヤチェンジの速度

各ギヤでの走行速度およびシフトダウンのギヤチェンジは、以下の速度を目安として行ってください。

走行速度

1 速 : 0 km/h–95 km/h
2 速 : 20 km/h–130 km/h
3 速 : 25 km/h–155 km/h
4 速 : 30 km/h–180 km/h
5 速 : 35 km/h–180 km/h
6 速 : 40 km/h 以上

シフトダウン速度

6 速 → 5 速 : 170 km/h 以下
5 速 → 4 速 : 145 km/h 以下
4 速 → 3 速 : 125 km/h 以下
3 速 → 2 速 : 100 km/h 以下
2 速 → 1 速 : 75 km/h 以下

JWA20720

⚠警 告

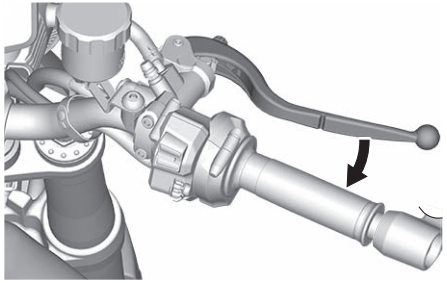
法定速度を守って走行してください。

JAU33176

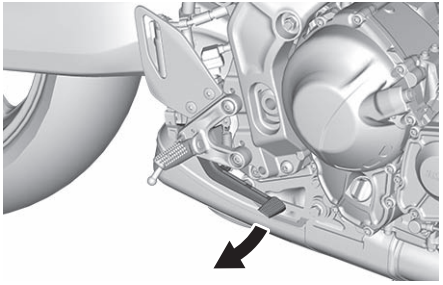
ブレーキ

1. スロットルを完全に閉じます。
2. フロントブレーキとリヤブレーキを同時に、徐々にかけます。

<フロントブレーキ>



<リヤブレーキ>



JWA11573

⚠警 告

- **急なブレーキ操作は避けてください（特に**

どちらか一方に傾いているとき）。横すべりや転倒の原因となります。
- 踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。
- 濡れた路面では、ブレーキがききにくいことを留意してください。
- 下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。
- 連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。

JCA26500

注 意

- 上り坂で停止するときは、ブレーキを使用してください。スロットルグリップならびにクラッチの操作で車を保持すると、クラッチなどが発熱して故障の原因となったり、エンジン警告灯が点灯したりするおそれがあります。
- 不要な空ぶかしをしないでください。エンジン警告灯が点灯するおそれがあります。

JAU17214

駐車

駐車するときは、エンジンを止め、キーをメインスイッチから抜きます。

JWA11582

⚠ 警 告

- エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。
- 草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。
- 傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。

JAU29839

点検整備の実施

日常点検

5-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、適時実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、1年点検と2年点検の2種類があります。定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JWA12055

⚠ 警 告

- **点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。**
- **点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。**
  - **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
  - **エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。**
  - **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。**
  - **走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。**
  - **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

JWA15461

⚠ 警 告

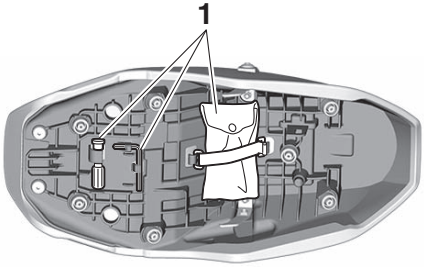
走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキディスク、キャリパー、ドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が充分に冷えてから行ってください。

要　点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。）
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

JAU85230

サービスツール



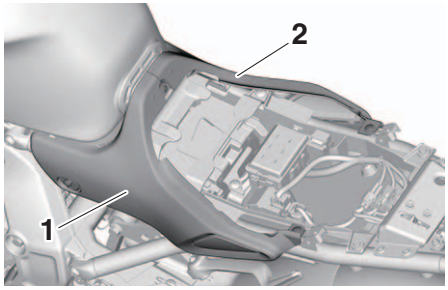
1. サービスツール

サービスツールは図で示す場所にあります。

JAU94891

サイドカバー

図のカバーは、点検整備などで取り外す必要があります。カバーを取り外すときや、取り付けるときは、この項目を参照してください。

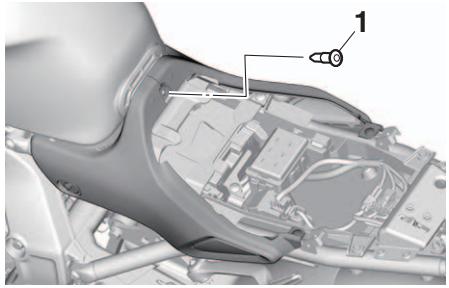


1. カバー A
2. カバー B

JAU94901

カバーの取り外し

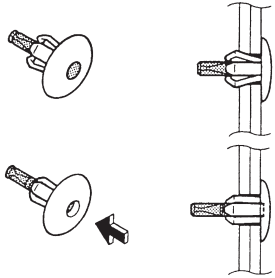
1. シートを取り外します。（4-22 ページ参照）
2. クイックファスナー A を取り外します。



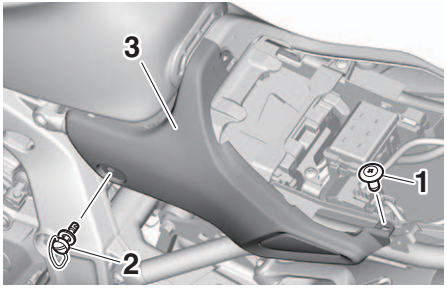
1. クイックファスナー A

要　点

クイックファスナーAはセンターピンを押し込んで取り外します。



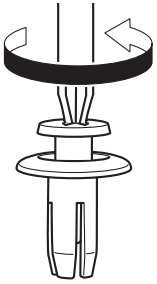
3. カバー A を取り外します。



1. クイックファスナーB
2. クイックファスナーC
3. カバーA

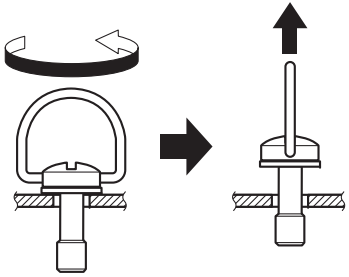
要　点

クイックファスナーBは、プラスドライバーでねじ部を反時計回りに回し、取り外します。

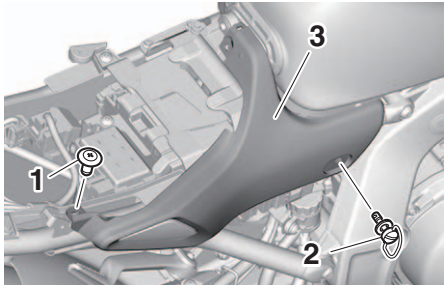


要　点

クイックファスナーCは、リングを反時計回りに回して取り外します。



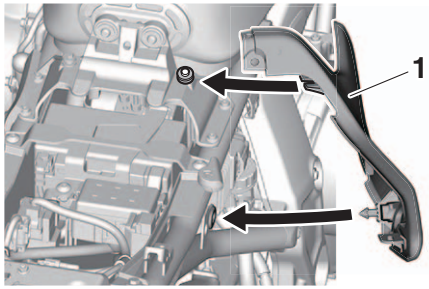
4. カバーBを取り外します。



1. クイックファスナーB
2. クイックファスナーC
3. カバーB

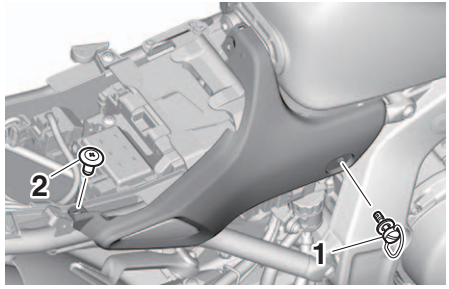
カバーの取り付け

1. カバーBを取り付けます。



1. カバーB

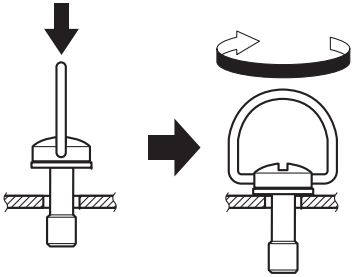
2. クイックファスナーCとクイックファスナーBを取り付けます。



1. クイックファスナーC
2. クイックファスナーB

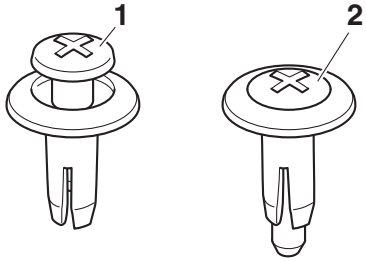
要　点

クイックファスナーC は、リングを押しながら時計回りに回して取り付けます。



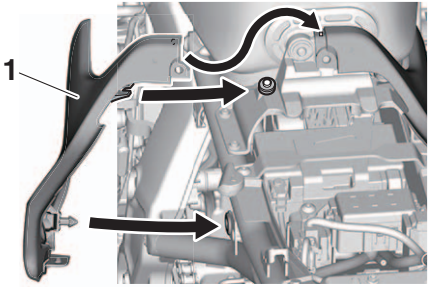
要　点

クイックファスナーB は、ねじ部がクイックファスナーの面から突き出した状態で取り付け、その後クイックファスナーの面と同じ位置になるまで押し込みます。



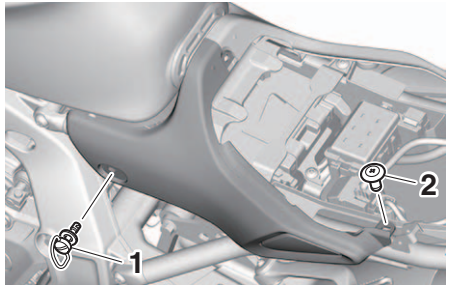
1. クイックファスナー（取り付け前）
2. クイックファスナー（取り付けた状態）

3. カバー A を取り付けます。



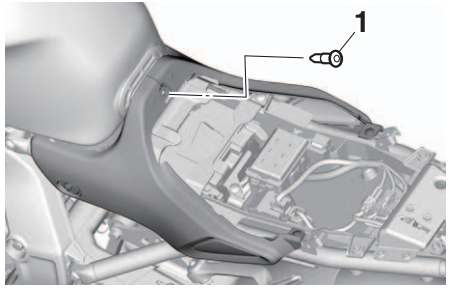
1. カバー A

4. クイックファスナーC とクイックファスナー B を取り付けます。



1. クイックファスナー C
2. クイックファスナー B

5. クイックファスナー A を取り付けます。

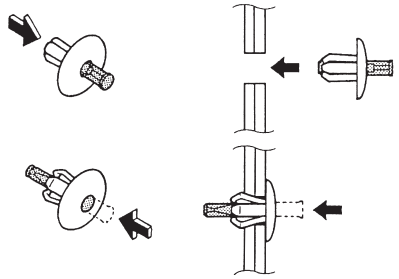


1. クイックファスナー A

要　点

クイックファスナーA は、センターピンを押し出した状態で取り付け、センターピンとファスナーヘッドを同じ位置になるまで押

し込みます。



JAU30378

エンジンオイル

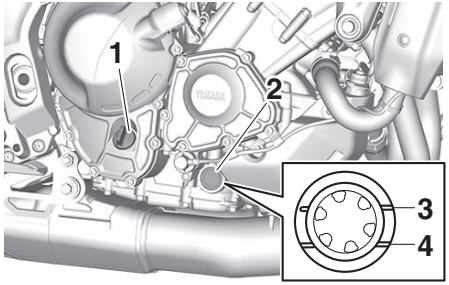
エンジンオイル量の点検

1. 平坦な場所でエンジンを2～3分間アイドリング運転します。

要　点

走行直後でエンジンが充分に暖まっていれば、アイドリング運転は不要です。

2. エンジンを止めて車を垂直にし、オイルレベルが安定するまで数分間待ちます。その後、オイル点検窓でエンジンオイル量を点検します。

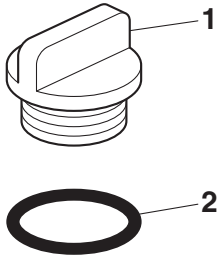


1. オイル注入口
2. エンジンオイル点検窓
3. フルレベル
4. ロアレベル

3. オイル量がロアレベル以下のときは、オイル注入口から補給します。(推奨エンジンオイルについては、8-3 ページ参照)

要　点

O リングに損傷がないか点検し、損傷がある場合は交換してください。



1. オイル注入口キャップ
2. O リング

JAU47505

エンジンオイルの交換時期

初回：
1 か月点検時または 1000 km 時
2 回目以降：
10000 km 走行ごと、または 1 年ごと
エンジンオイル量：
オイル交換時：
2.80 L
オイルフィルター取り外し時：
3.20 L

定期交換時期の前でも、エンジンオイルの汚れが著しいときやエンジンオイルが薄茶色に濁っているときは、早めにエンジンオイルを交換してください。汚れや濁りの程度については、ヤマハ販売店にご相談ください。

オイルフィルターカートリッジの交換時期

初回：
1 か月点検時または 1000 km 時
2 回目以降：
30000 km 走行ごと

JWA11861

⚠警 告

- **走行後など、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。**
- **油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。**

JCA12261

注 意

- **化学添加剤は一切加えないでください。**
- **補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。**
- **オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。**

JAU30691

エンジンのかかり具合、異音の点検

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。
エンジンから異音がしないかを点検します。

JAU91020

低速、加速の状態の点検

低速、加速の状態の点検前に以下の点検を行ってください。

- エンジンを停止した状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛かりがなくスムーズに作動することと、手を離したときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。また、ハンドルを左右にいっぱいに切った状態でも同じ点検を行ってください。

アイドリングがスムーズに続くかを点検します。

スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき、エンジンストール（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU20071

冷却水

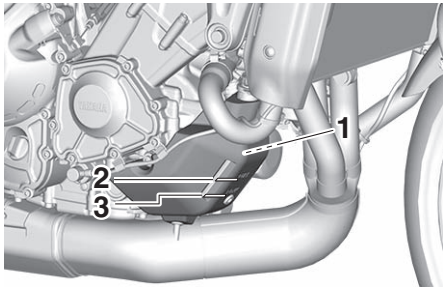
JAU30723

冷却水量の点検

要　点

冷却水量の点検は、エンジンが冷えた状態で、車を平坦なところで垂直にして行ってください。

リカバリータンク内の冷却水量が、フルレベルとロアレベルの範囲内にあるかを点検します。



1. リカバリータンク
2. フルレベル
3. ロアレベル

冷却水がロアレベル以下のときは、以下を参照して補充してください。

JAU30805

冷却水のつくりかた

ヤマルーブロングライフクーラントと水道水を 1 対 1 で混ぜ合わせます。



JWA11882

⚠ 警 告

クーラントには毒性がありますので、取り扱いには充分注意してください。

- **目に入ったとき**
  水で充分に洗い流してから、医師の治療を受けてください。
- **皮膚や衣類についたとき**
  すみやかに水洗いした後、セッケン水で洗ってください。
- **飲んだとき**
  すぐにおう吐させ、医師の治療を受けてください。

JCA12112

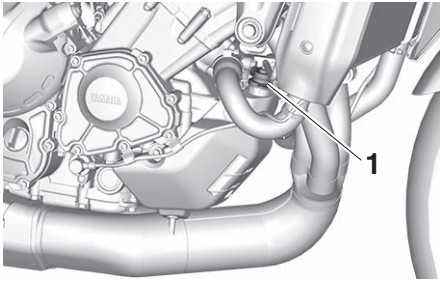
注 意

混ぜ合わせに使用する水は水道水を使用し、井戸水や塩分の含まれた天然水は使用しないでください。

JAU30812

冷却水の補充

リカバリータンク内の冷却水量を点検し、ロアレベルより水面が下がっているときは、リカバリータンクキャップを開けて冷却水をフルレベルまで補充します。



1. リカバリータンクキャップ

JCA12121

注 意

- **フルレベル以上は入れないでください。**
- **冷却水の交換は、ヤマハ販売店で行ってください。**

JAU36765

エアクリーナーエレメントの交換

エアクリーナーエレメントは、定期的な交換が必要です。

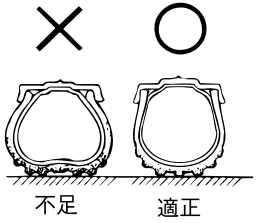
エアクリーナーエレメントの交換は、ヤマハ販売店へ依頼してください。

ほこりの多い場所や湿気の多い場所を走行する機会が多い場合は、より短い期間で交換する必要があります。ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU65360

タイヤ

空気圧



タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。
空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。
この車はチューブレスタイヤを装着しています。

タイヤ空気圧（冷間時）：
1 名乗車：
前輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm^2)
後輪：
290 kPa (2.90 kgf/cm^2)
2 名乗車：
前輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm^2)
後輪：
290 kPa (2.90 kgf/cm^2)

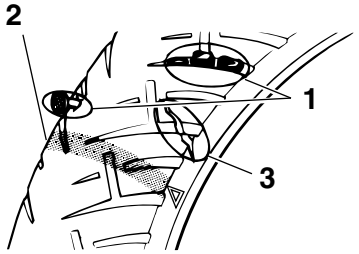
要　点

- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも 1 か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

JAU28642

タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。
この車はチューブレスタイヤを装着しています。タイヤの接地面や側面に釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検し、異常があったときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



1. 異物（釘、石など）
2. ウェアインジケーター（摩耗限度表示）
3. 亀裂、損傷

要　点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。

JAU28701

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28776

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケーターで点検します。ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要　点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が0.8 mm になるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に二輪車のタイヤは溝の深さが前輪 1.6mm、後輪2.0mm以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11914

⚠警　告

- **タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用し、前後とも同じ銘柄のものを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤや前後で異なった銘柄のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので使用しないでください。**
- **過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。**
- **タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。**

タイヤサイズ：

前輪：
120/70ZR17M/C (58W)

後輪：
180/55ZR17M/C (73W)

指定タイヤ：

前輪：
BRIDGESTONE/BATTLAX HYPERSPORT S22F

後輪：
BRIDGESTONE/BATTLAX HYPERSPORT S22R

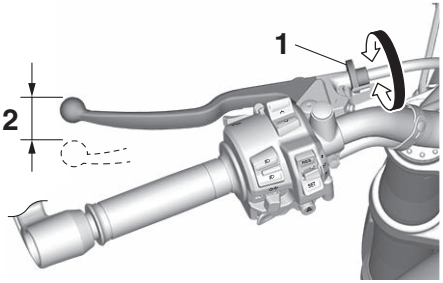
JAU45563

クラッチ

クラッチレバーの遊び

クラッチレバーを手で抵抗を感じるまで引き、レバー先端部の遊びの量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

クラッチレバーの遊び
10.0–15.0 mm



1. アジャスター
2. 遊び

点検の結果調整が必要な場合は、アジャスターで調整します。

JWA11841

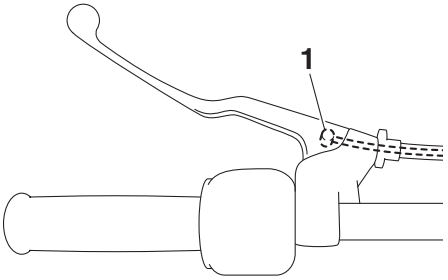
⚠ 警 告

調整後、エンジンをかけてギヤチェンジがスムーズにできるか、エンストなどしないかを確認してください。なお、車の飛び出しに注意してください。

JCA16283

注 意

1か月に一度はクラッチケーブルの取り付け部に注油をしてください。



1. ケーブル取り付け部

JAU31122

ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検

ブレーキの遊びの点検

ブレーキレバーおよびブレーキペダルの遊びはありません。ブレーキを手で作動させ、手ごたえがあるかどうかを確認します。

JWA11741

⚠ 警 告

ブレーキレバーの引き具合、ブレーキペダルの踏み具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、フロントブレーキ、リヤブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。
ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11761

⚠ 警 告

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

JAU36505

ブレーキランプスイッチの点検

ブレーキがきき始める直前にブレーキランプが点灯するか点検します。ブレーキランプは ABS の構成部品ですので、異常があるときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

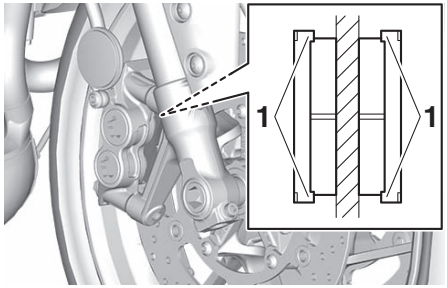
JAU49291

ブレーキパッドの点検

ブレーキパッドの損傷や摩耗の状態を点検します。摩耗したブレーキパッドは、ヤマハ販売店で交換してください。

＜フロントブレーキ＞

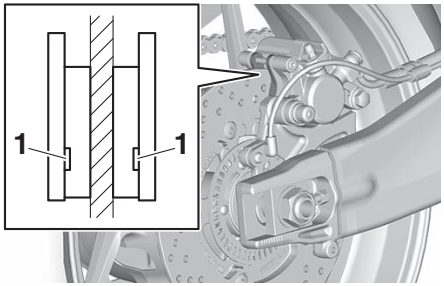
ブレーキパッドのインジケーターとブレーキディスクのすき間がなくなったら、ヤマハ販売店でブレーキパッドをセットで交換してください。



1. インジケーター

＜リヤブレーキ＞

ブレーキパッドのインジケーター溝まで摩耗したら、ヤマハ販売店でブレーキパッドをセットで交換してください。

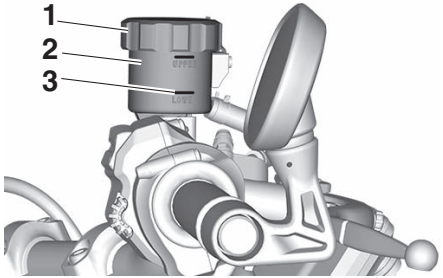


1. インジケーター溝

JAU44233

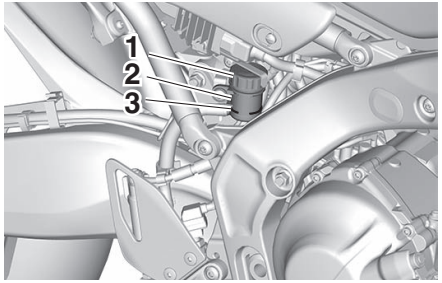
ブレーキ液量の点検

＜フロントブレーキ＞



1. ブレーキリザーバータンクキャップ
2. リザーバータンク
3. ロアレベル

＜リヤブレーキ＞



1. ブレーキリザーバータンクキャップ
2. リザーバータンク
3. ロアレベル

ブレーキリザーバータンクキャップ上面を水平にして、リザーバータンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。
液量がロアレベル以下のときは、販売店へブレーキ液の補給を依頼してください。

JWA12152

⚠ 警 告

- **ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。販売店で点検・整備を受けてください。**
- **ブレーキ液は安全のために2年ごとに交換してください。**

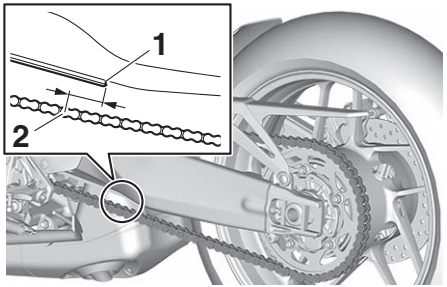
JAU22762

ドライブチェーン

JAU97540

ドライブチェーンの点検

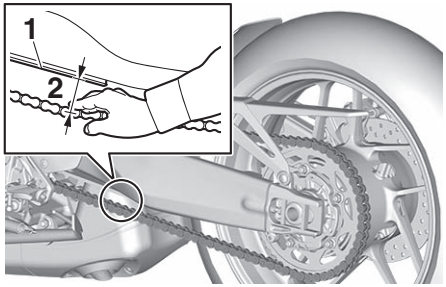
1. ギヤをニュートラルにしてサイドスタンドを立てます。
2. 図のように、ドライブチェーンガードの端から前方へ 53 mm を測定し、チェーンの中間位置（ポイント B）を見つけます。



1. ドライブチェーンガード端
2. ポイント B

3. ドライブチェーンの中間位置（ポイント B）を手で下側に押します。このとき、ドライブチェーンガードの下側からポイント B までの長さ（セット長 A）が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検しま

す。



1. ドライブチェーンガード
2. セット長 A

要　点

セット長 A（ドライブチェーンのたわみ量）を点検するときは、車体に荷重を掛けないで行います。

セット長 A：
45.0–50.0 mm

4. ドライブチェーンのたわみ量が規定の範囲にない場合は、たわみ量を調整します。

JCA17791

注 意

ドライブチェーンのたわみ量が55.0 mm以上の場合、走行しないでください。ドライブチェーンがリヤアームなどの部品に接触して損傷を与えることがあります。

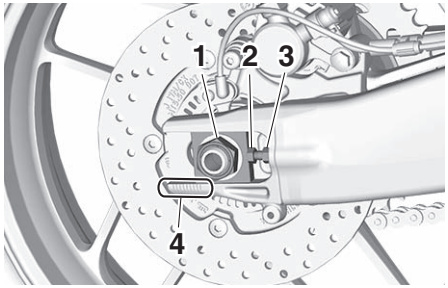
ドライブチェーンたわみ量の調整は、ヤマハ販売店にご相談ください。

5. 車体を前後にゆっくり動かしてチェーンが滑らかに回転するか、給油は充分かを点検します。

JAU74260

ドライブチェーンたわみ量の調整

1. セルフロッキングナットをゆるめます。



1. セルフロッキングナット
2. アジャスター
3. ロックナット
4. 刻み目盛り

2. ロックナットをゆるめて、チェーンのたわみ量が規定値になるようにアジャスターで調整します。

要　点

刻み目盛りを左右同じ位置にします。

3. 調整後、セルフロッキングナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
セルフロッキングナット：
105 N·m (10.5 kgf·m)

4. ロックナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
ロックナット：
16 N·m (1.6 kgf·m)

5. 左右の刻み目盛りが同じ位置にあるか、ドライブチェーンたわみ量が規定の範囲にあるか、チェーンが滑らかに回転するか確認します。

JAU23027

ドライブチェーンの給油

1. リヤホイールを浮かし、ホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンやスプロケットに付着した泥や汚れを柔らかいブラシなどで落とします。その後、ヤマルーブ スーパーチェーンクリーナーで洗浄します。
2. チェーンを乾燥させた後、リヤホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンにヤマルーブ 180 チェーンオイルを給油します。

JCA12471

注 意

この車はシールチェーンを採用しています。取り扱いには以下の点に注意してください。

- **スチーム洗浄はしないでください。**
- **シンナー、ガソリンなどの揮発性溶剤やワイヤーブラシを使用して洗浄しないでください。**

JAU97760

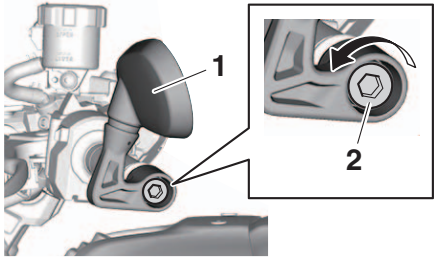
バックミラー

バックミラーの脱着のしかた

要 点

取り外しと、取り付けの手順は左右同じです。

- バックミラーを取り外すときは、バックミラー取り付けボルトを外します。

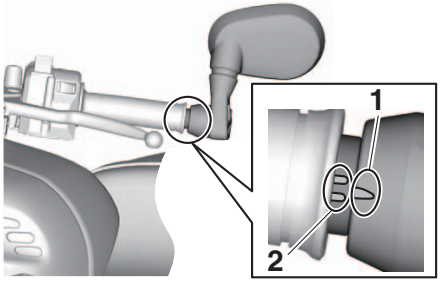


1. バックミラー
2. バックミラー取り付けボルト

- バックミラーを取り付けるときは、バックミラー取り付けボルトを規定のトルクで締め付けます。

要 点

ハンドル側マークの間にミラー側マークが入るように、位置を合わせて締め付けてください。



1. ミラー側マーク
2. ハンドル側マーク

締め付けトルク：
バックミラー取り付けボルト：
38 N·m (3.8 kgf·m)

JAU28621

車体各部の給油脂状態の点検

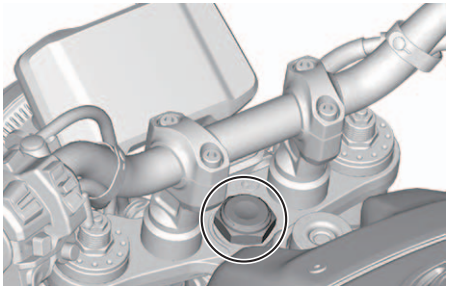
車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。

異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU28651

アンダーブラケットの取り付け状態の点検（ステアリングステム）

アンダーブラケットの締付ボルトまたは締付ナットに、ゆるみがないかを工具で点検します。



締付ボルトまたは締付ナットにゆるみがあるときは、ヤマハ販売店で規定トルクでの締め付けを依頼してください。

JAU74800

バッテリー

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。

バッテリー液の補充、点検は不要です。

バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JWA11811

⚠警 告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- **火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。**
- **補充電は風通しのよいところで行ってください。**
- **ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。**
- **落下などの強い衝撃を加えないでください。**

- バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。
- 子供の手の届くところに置かないでください。

応急手当

- 万一、バッテリー液が皮膚、衣服などについたときはすぐに多量の水で洗い流してください。
- 目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

JCA23660

注 意

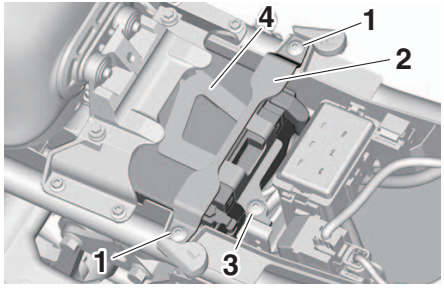
- このバッテリーは密閉式の 12V です。
- このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。
- 補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。
- 長期間ご使用にならないときは、3 か月ごとに補充電してください。
- バッテリーを交換するときは、指定されたバッテリーを使用してください。指定以外のバッテリーを使用すると、IMU が故障してエンジンが停止するおそれがあります。

JAU97580

バッテリーの取り外し

バッテリーはシートの下に取り付けられています。（4-22 ページ参照）

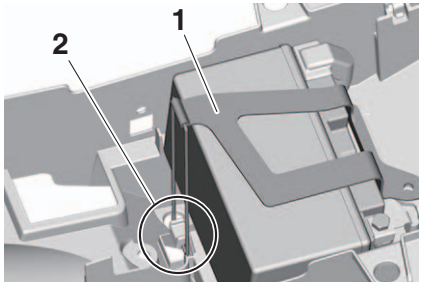
1. サイドカバーを取り外します。（7-2ページ参照）
2. ボルト A を外し、バッテリーステーを取り外します。
3. ボルト B を外し、バッテリーホルダーを取り外します。.



1. ボルト A
2. バッテリーステー
3. ボルト B
4. バッテリーホルダー

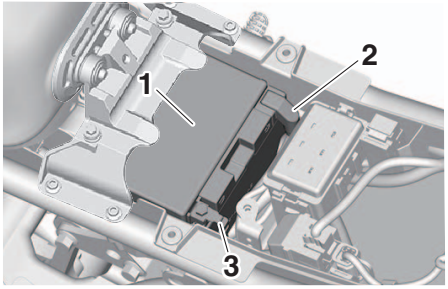
要 点

バッテリーホルダーはフックに固定されています。



1. バッテリーホルダー
2. フック

4. −リード線を外し、次に+リード線を外します。
5. バッテリーを取り外します。



1. バッテリー
2. +リード線
3. −リード線

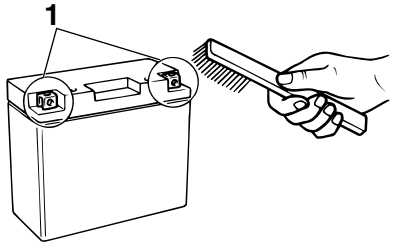
バッテリーの取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU29411

ターミナル部の清掃

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。

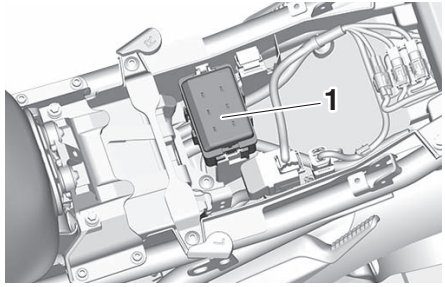


1. ターミナル

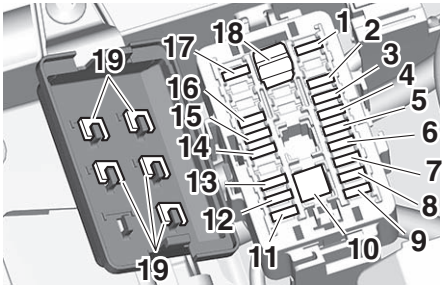
JAU91572

ヒューズ交換

ヒューズボックスは、シートの下にあります。(4-22 ページ参照)



1. ヒューズボックス



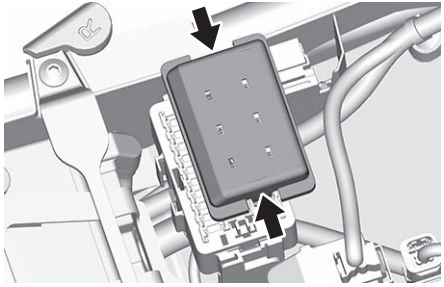
1. ブレーキランプヒューズ
2. イグニッションヒューズ 2
3. シグナルヒューズ
4. イグニッションヒューズ
5. ヘッドライトヒューズ
6. ABS ECU ヒューズ
7. フューエルインジェクションヒューズ
8. 電子制御スロットルバルブヒューズ
9. バックアップヒューズ 2
10. メインヒューズ
11. ABS モーターヒューズ
12. ABS ソレノイドヒューズ
13. ラジエターファンモーターヒューズ
14. DC ターミナルヒューズ 1
15. アクセサリーヒューズ
16. バックアップヒューズ
17. クルーズコントロールヒューズ
18. ヒューズプラー
19. スペアヒューズ

ヒューズが切れた場合は、以下のように交換します。

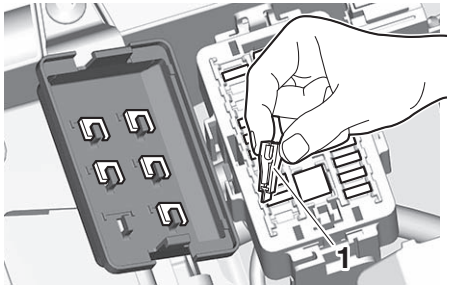
要　点

- スペアヒューズは、ヒューズボックスカバーの裏側にあります。
- ヒューズを取り外すときは、ヒューズプラーをご使用ください。

1. 車両の電源をオフにします。
2. 図のように、ヒューズボックスカバーの 2 点を内側に押しながら上方向に引き、カバーを取り外します。



3. ヒューズプラーで切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。



1. ヒューズプラー

規定ヒューズ：
DC ターミナル 1:
2.0 A
メイン：
50.0 A
アクセサリー：
2.0 A
ヘッドライト：
7.5 A
ブレーキランプ：
2.0 A
シグナル：
7.5 A
イグニッション：
10.0 A
イグニッション 2:
7.5 A
ラジエターファンモーター：
15.0 A
ABS モーター：
30.0 A
ABS ECU:
7.5 A
フューエルインジェクション：
7.5 A
ABS ソレノイド：
15.0 A
クルーズコントロール：
2.0 A
バックアップ：
7.5 A
バックアップ 2:
15.0 A
電子制御スロットルバルブ：
7.5 A

4. 車両の電源をオンにし、装置が正しく作動することを点検します。
5. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。
6. ヒューズプラーを戻し、ヒューズボックスカバーを取り付けます。

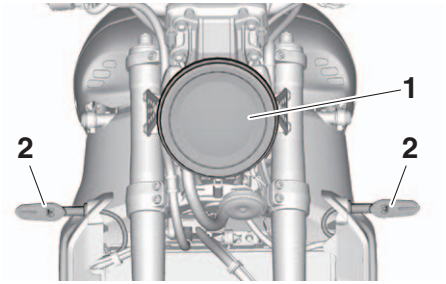
JCA12862

注 意

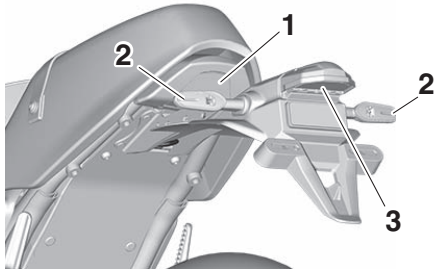
- **交換するヒューズは、指定されている容量のヒューズを使用してください。指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。**
- **電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。**
- **洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。**

JAU29447

灯火装置および方向指示灯の点検



1. ヘッドライト / マーカーランプ
2. 方向指示灯（前）



1. ブレーキ / テールランプ
2. 方向指示灯（後）
3. 番号灯

1. 車両の電源をオンにします。
2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯

火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. エンジンを始動し、ヘッドライトの点灯状態が良好かを点検します。
4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検（7-18ページを参照）し、異常がないときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JCA12063

注 意

電球は、指定されているワット数・規格のもの（9-1 ページ「製品仕様」を参照）を使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

JAU29571

運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

JAU35124

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。
すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

マット塗装（ツヤ消し塗装）のお手入れ

お車によってはマット塗装が施されています。マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください。

JCA13084

注 意

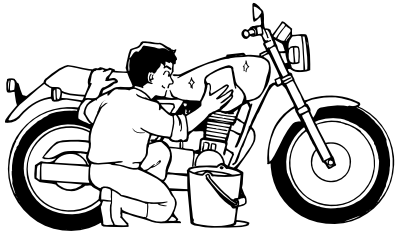
- **洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。**
- **ワックスがけはしないでください。外観が変化することがあります。**
- **コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。**

JAU27796

洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して洗車した後、充分に水洗いします。
- 柔らかい布で、車に付着した水分をよくふきとります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）



JWA11931

⚠警 告

- **洗車はエンジンが冷えているときにしてください。**
- **洗車後、ブレーキのききが悪くなることがあります。ききが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、ききが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。**
- **ブレーキディスクやパッドにワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキがきかなくなり、事故の原因になることがあります。**

JCA12215

注 意

- **エアクリーナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。**
- **マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。**
- **ヘッドライト、メーターパネル、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入ったワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。**

● ウインドスクリーン、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが充分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。

● 高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。

要　点

● シートの下方から水を強くかけないでください。内部に水が入り、書類が濡れることがあります。

● 洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドライトを短時間点灯することで自然に取れます。

JAU28001

アルミフレーム、キャストホイールの取り扱い

日常のお手入れ

清掃は中性洗剤を使用し、スポンジで水洗いします。
（工業用洗剤、みがき粉、クレンザー、金属タワシなどは、傷がつくので使用しないでください。）
洗車後は、乾いた布などで水分をよくふきとってください。
長期間お手入れをしませんと、表面だけでなく内部まで腐食します。手遅れにならないように、お手入れをしてください。

JWA11961

⚠ 警 告

変形したり、損傷したアルミフレームやキャストホイールは、修正して使用しないでください。変形したり、損傷したときは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12221

注 意

● 縁石などに乗り上げるときは、キャストホイールのリムが傷つきやすいので注意してください。

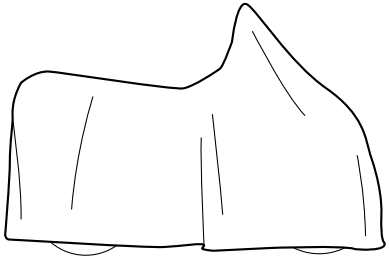
● アルミは塩分に弱く腐食しやすいので、海岸付近や凍結防止剤をまいた道路などを走った後は、すぐに水洗いをしてください。

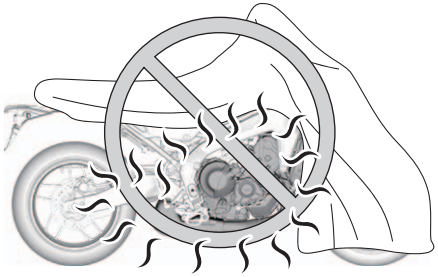
JAU35912

保管のしかた

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。

なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。





JCA13111

注 意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

- **保管する前にワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）サビを防ぐ効果があります。**
- **バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、3 か月ごとに補充電を行ってください。**
- **長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。**

※ 補充電については、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU28087

アフターケア用品について

ヤマハ車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。大切なお車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。また、お車の手入れにも、ヤマハ純正用品をご使用いただくことをおすすめします。

JAU28116

ヤマハ純正オイル

ヤマルーブ RS4GP

ヤマルーブシリーズ最高峰エンジンオイル。ヤマルーブ RS4GP は、ヤマハ発動機の MotoGP レーシングチームにおいて技術開発されたテクノロジーを高次元でフィードバックしています。

高負荷、高回転での過酷な条件に耐える油膜保持性、せん断安定性に優れ、長時間安定して高い潤滑性能を発揮します。

高性能エンジンに適した、ヤマルーブシリーズ最高峰の高性能オイルです。

低摩擦特性・高い油膜保持性により、優れたスロットルレスポンスとシフトフィーリングを長時間安定して発揮します。

ヤマルーブプレミアムシンセティック

中・大型車両に最適な高品質二輪車用オイ

8

ル。
大排気量モデルでの夏場の渋滞運転などエンジンには過酷な状況に強いオイル。
高温高負荷状況下で蒸発が少なく、高い酸化安定性能と油膜保持性能を発揮します。

ヤマルーブスポーツ
走行シーンを選ばないミドルグレードオイル。
価格と性能のバランスに優れ、排気量や車種を問わないオイル。
ストリートからロングツーリングまであらゆる走行シーンで安定した性能を発揮します。

ヤマルーブスタンダードプラス
経済的にも優れた、コストパフォーマンスオイル。
ヤマハ車の開発テストに使用され、工場出荷時にも充填されるベーシックオイル（一部車種を除く）。
コストパフォーマンスに優れ、スポーツ走行からタフな業務使用まで幅広い用途に対応。

エンジンオイル以外のオイルや、その他の油脂液類については、次のURLを入力してホームページを参照するか、「ヤマハ　バイク　オイル」というキーワードで検索してください。

https://www.ysgear.co.jp/mc/

ヤマハ　バイク　オイル　検索

寸法 :
全長 :
2155 mm
全幅 :
790 mm
全高 :
1155 mm
シート高 :
810 mm
軸間距離 :
1495 mm
最低地上高 :
140 mm

重量 :
車両重量 :
193 kg
乗車定員 :
2 名

性能 :
最小回転半径 :
3.5 m

エンジン :
行程 :
4 ストローク
冷却方式 :
水冷
動弁機構 :
DOHC
配列 :
直列
気筒数 :
3 気筒
総排気量 :
888 cm^3

フロントブレーキ :
ブレーキ形式 :
油圧式ダブルディスクブレーキ
指定ブレーキフルード :
BF-4 (DOT-4)

リヤブレーキ :
ブレーキ形式 :
油圧式シングルディスクブレーキ
指定ブレーキフルード :
BF-4 (DOT-4)

フロントタイヤ :
種類 :
チューブレス
サイズ :
120/70ZR17M/C (58W)
メーカー / 銘柄 :
BRIDGESTONE/BATTLAX
HYPERSPORT S22F

リヤタイヤ :
種類 :
チューブレス
サイズ :
180/55ZR17M/C (73W)
メーカー / 銘柄 :
BRIDGESTONE/BATTLAX
HYPERSPORT S22R

動力伝達機構 :
1 速 :
2.571 (36/14)
2 速 :
1.947 (37/19)
3 速 :
1.619 (34/21)
4 速 :
1.380 (29/21)
5 速 :
1.190 (25/21)
6 速 :
1.037 (28/27)

エレクトリカル :
電圧 :
12V

バルブワット数 :
ヘッドライト :
LED

製品仕様

ブレーキ / テールランプ :
LED
方向指示灯（前）:
LED
方向指示灯（後）:
LED
番号灯 :
5.0 W
マーカーランプ :
LED

エンジンオイル :

推奨オイル :
ヤマルーブ プレミアムシンセティック、スポーツ、スタンダードプラス

エンジンオイル量 :

オイル交換時 :
2.80 L
オイルフィルター取り外し時 :
3.20 L

冷却水容量 :

リザーブタンク（FULL レベルまで）:
0.28 L
ラジエターと全ての経路 :
1.72 L

バッテリー :

バッテリー型式 :
YTZ10S
バッテリー容量 :
12 V, 8.6 Ah (10 HR)

スパークプラグ :

メーカー / 型式 :
NGK/LMAR9A-9
プラグギャップ :
0.8–0.9 mm

JAU36644

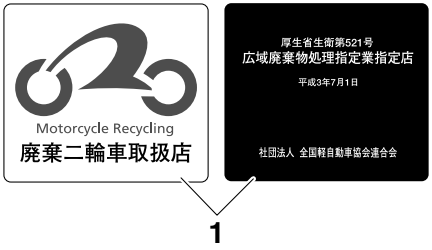
二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

一般社団法人　全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



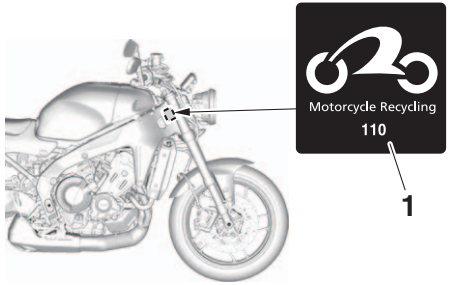
1. 廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。
廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。
剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうかが不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」、または下記のホームページへお願いします。
ヤマハ発動機（株）　二輪車リサイクルシステム
https://www.yamaha-motor.co.jp/mc/recycle/
公益財団法人　自動車リサイクル促進センターホームページ
https://www.jarc.or.jp/motorcycle/

JAU28393

サービスマニュアル（別売）の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。
サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

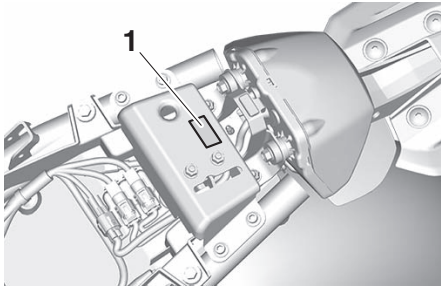
サービスマニュアル　部品番号：
QQS-CLT-000-BEA

JAU28457

車両情報

モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。
モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。
モデルラベルは、シート下のフレームに貼り付けてあります。

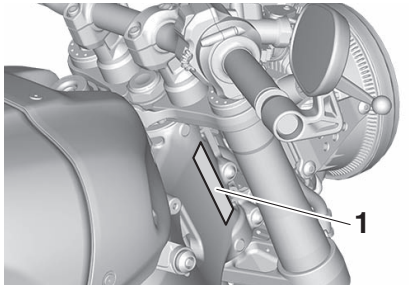


1. モデルラベル

あなたの車の情報を記入し、控えにしてください。
車名は
XSR900
モデルラベル
製品仕様を示しています。
○
カラーリングを示しています。
●

JAU50501

車台番号



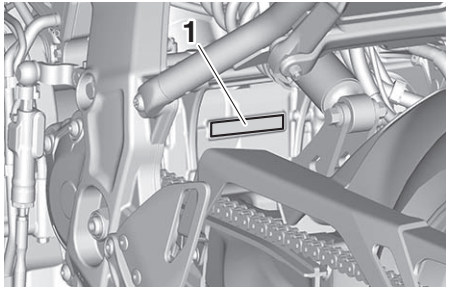
1. 車台番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

10

JAU50511

原動機番号

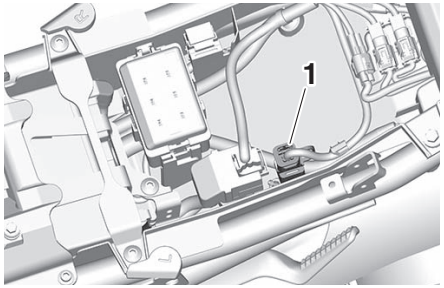


1. 原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

JAU73861

故障診断コネクター



1. 故障診断コネクター

この車には故障診断コネクターが搭載されています。

ユーザー情報

JAUA1210

車両情報の記録に関して

これはヤマハ発動機（以下、当社といいます）の車両情報利用についての概要です。詳細については、当社 WEB サイトのプライバシー・ポリシーをご確認ください。

https://global.yamaha-motor.com/jp/privacy/

車両情報の記録と収集方法

この車両に搭載されているコンピューターは、次の３種類の車両情報を記録しています。

1）車体番号

2）エンジン / モーターの使用状況、車速、走行距離などの車両稼働状況の情報

3）故障診断コード（DTC）など、車両の状態を示す情報

記録した車両情報は車両点検や修理の際にヤマハ車専用の故障診断ツールを接続した場合に限り、当社のサーバーに送信されます。

車両情報の利用目的

当社は収集した車両情報を以下の目的で使用します。

1）適切なメンテナンスや故障探求のため

2）適正な保証修理判定のため

3）製品の研究開発

4）製品、機能、およびサービスの品質向上のため

5）その他の事業目的を達成するため

6）法律や規則に基づいて要求された場合

車両情報の提供に関して

利用目的の達成に必要な範囲内で、子会社、関連会社、業務提携会社、ヤマハ販売店、および契約者会社に情報を提供する場合があります。

お問い合わせ窓口

車両情報の取扱いに関しての請求、質問やご要望がある場合は、以下のメールアドレスにお問合せください。

ヤマハ発動機株式会社

〒 438-8501 静岡県磐田市新貝 2500

dpo@yamaha-motor.co.jp

こちらの連絡先は、車両情報収集に関するお問い合わせのみに使用させていただいております。

関連のないお問合せをいただいた場合、回答できないことがございます。あらかじめご了承ください。

お客様のご要望に的確にお応えするため、ご連絡いただく際には、**お客様の名前、住所、電話番号、メールアドレス等の連絡先と車体番号**をお知らせください。ご連絡いただいた内容に不明な点がある場合は、お客様にご連絡させていただきます。なお、確認が取れない場合はご要望に応じられない可能性があります。

索引

あ

あなた自身と同乗者のために 1-1
アフターケア用品について 8-3
アルミフレーム、
　キャストホイールの取り扱い 8-2
アンダーブラケットの
　取り付け状態の点検
　（ステアリングステム）.....7-16

い

ETC コネクター 4-28
イグニッションサーキット
　カットオフシステム 4-29
イモビライザーシステム 4-2

う

運行において異常が認められた
　箇所の点検 7-21

え

ABS 警告灯 4-7
エアクリーナーエレメントの交換.....7-8
エンジンオイル.....7-5
エンジン警告灯.....4-7
エンジン始動 6-1
エンジンのかかり具合、
　異音の点検 7-6

か

環境・住民の方との調和のために.....1-6

き

キーの取り扱い.....4-1
ギヤチェンジのしかた.....6-2

く

クイックシフター.....3-5
クラッチ 7-11
クルーズコントロールシステム 3-1
クルーズコントロールスイッチ 4-5
クルーズコントロール表示灯 4-7

け

警告灯と表示灯 4-6
原動機番号 10-3

こ

故障診断コネクター.....10-3

さ

サービスツール 7-2
サービスマニュアル（別売）の
　紹介.....10-2
サイドカバー 7-2
サイドスタンド 4-29

し

シート.....4-22
シフトペダル 4-19
車体各部の給油脂状態の点検 7-16
車台番号.....10-2
車両情報.....10-2
車両情報の記録に関して 10-4
車両の特徴.....3-1
書類入れ.....4-23

す

スターター／
　エンジンストップスイッチ 4-4
スタビリティコントロール表示灯 4-8

せ

洗車.....8-1

た

タイヤ.....7-9

ち

駐車 6-4

て

TCS-MODE（トラクション
　コントロールシステムモード）.....3-4
DC コネクター.....4-28
D-MODE（ドライブモード）.....3-3
ディスプレイ 4-9
低速、加速の状態の点検.....7-7
点検整備の実施 7-1

と

灯火装置および方向指示灯の
　点検.....7-20
ドライブチェーン 7-13
ドライブチェーンの給油.....7-15

な

ならし運転.....6-1

に

日常点検箇所／点検内容.....5-1
日常点検の実施 5-1
ニュートラルランプ 4-6
二輪車を廃棄する場合は？ 10-1

ね

燃料 4-22

は

ハザードスイッチ 4-5
バックミラー.....7-15
バッテリー.....7-16
ハンドル位置の調整 4-24
ハンドルスイッチ 4-3

ひ
BC（ブレーキコントロール システム）.....3-6
ヒューズ交換.....7-18
ふ
フューエルタンクキャップ.....4-21
ブレーキ.....6-3
ブレーキ液量の点検.....7-13
ブレーキコントロール (BC).....4-20
ブレーキパッドの点検.....7-12
ブレーキランプスイッチの点検 7-12
ブレーキレバーの遊び／ ブレーキペダルの遊び、および ブレーキのきき具合の点検 7-11
ブレーキレバーの握り調整.....4-28
フロントフォークの調整.....4-24
へ
ヘッドライト上下切り替え／ パッシングライトスイッチ 4-4
ヘルメットホルダー.....4-23
ほ
ホーンスイッチ 4-4
ホイールスイッチ 4-5
方向指示器スイッチ.....4-4
保管のしかた.....8-3
歩行者と他の車のために.....1-5
補助システム警告灯.....4-9
め
メインスイッチ 4-2
メニュー画面.....4-15
も
モードスイッチ MODE.....4-5
モデルラベル.....10-2
ゆ
油圧・冷却水温警告灯 4-8
ら
ライダーフートレスト位置の 調整 4-23
り
リヤクッションの調整 4-26
れ
冷却水 7-7

あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの巻末をご覧ください。

YAMAHA

QQS-CLT-101-BEA

PRINTED IN JAPAN
2024.02-0.3×1 (J)